

R Remote Version 6.0 ユーザーガイド

ヤマハ製品をご愛用いただきまして、まことにありがとうございます。

このユーザーガイドでは、Rio3224-D/Rio1608-D/Ri8-D/Ro8-D/RSio64-D/RMio64-D/Rio3224-D2/Rio1608-D2/Rio3224-D3/Rio1608-D3 (以降 R シリーズ) および Tio1608-D/Tio1608-D2 の各種パラメーターの設定を単独で行う Windows/Mac アプリケーション「R Remote」のセットアップ方法と操作方法、ファームウェアのアップデート方法について説明します。

1 台のコンピューターで最大 24 台までのデバイスのパラメーターの設定ができます。デバイスがつながっていても、仮想的にマウントしてあらかじめ設定しておくこともできます。

また、対応するデバイスには同時に 2 台までの R Remote をインストールしたコンピューターを接続できます。これによりたとえば、メインのオペレーターは CL などのコンソールで操作し、2 人のアシスタントが異なる場所で微調整をするなどのことができるようになります。



■ 注記(ご使用上の注意)

- ・ ソフトウェア、ファームウェアおよびユーザーガイドの著作権は、すべてヤマハ株式会社が所有します。
- ・ ソフトウェア、ファームウェアおよびユーザーガイドの一部、または全部を無断で複製、改変することはできません。
- ・ このユーザーガイドに掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合がありますので、ご了承ください。
- ・ このソフトウェアは Windows 10 / Windows 11 でのタッチパネルで操作する目的では製作されていませんので、タッチパネルによる操作の動作保証はしていません。
- ・ Dante は、Audinate 社の登録商標です。
- ・ Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Mac または macOS は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- ・ その他掲載されている会社名および商品名は、各社の商標および登録商標です。
- ・ 説明のための画像は、Windows 版を使用しています。ただし、Mac 版だけの機能を説明するための画像は、Mac 版を使用しています。
- ・ 本製品には、オープンソースソフトウェアが組み込まれています。詳細は「About R Remote」ダイアログの「Legal」ボタンで表示される License Agreement をご覧ください。
- ・ ソフトウェアは改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。

目次

■ 注記(ご使用上の注意)	1
目次	2
■ 動作環境	4
■ 操作について	4
セットアップ	5
R Remote をインストール(アンインストール)する	6
デバイスの設定をする	7
UNIT ID.....	7
IP アドレス.....	7
接続方法.....	8
START UP MODE.....	9
コンピューターとデバイスを接続する	10
デバイスの電源を入れる	10
コンピューターの IP アドレスを設定する	11
Windows の場合	11
Mac の場合	13
Dante Controller または CL/QL/RIVAGE PM/DM7/DM3 シリーズでルーティングをする.....	13
R Remote を操作する	14
メニューバー.....	14
エリア構成	16
機器選択エリア	17
情報表示エリア	18
メインエリア	18
Edit ウィンドウ (インプット)	20
「Network Setup」 ダイアログ	31
「Device Information」 ダイアログ.....	32
「IP Address」 ダイアログ	33
「Properties」 ダイアログ	34
Edit ウィンドウ (アウトプット)	36
「Meter」 画面.....	38
ファームウェアをアップデートする	40
ご注意(必ずお読みください).....	40
アップデートの流れ	40
デバイスとコンピューターの接続.....	41

ネットワーク設定.....	42
R Remote Firmware Updater.....	42
アップデート手順.....	45
デバイスの発見と喪失について.....	46
ファームウェアのアップデートに失敗した場合.....	46
メッセージ一覧.....	48
■エラーメッセージ.....	48
■警告メッセージ.....	49
■確認メッセージ.....	49
■その他のメッセージ.....	49

困ったときは	50
--------------	----

■ 動作環境

R Remote を使用するためには以下のものをご用意ください。

● 次の条件を備えたコンピューター

OS	Windows 10、Windows 11 (Windows は 64bit のみ対応しています) macOS 12、 macOS 13、 macOS 14、 macOS 15
CPU	Intel Core i3 以上、 及び Apple シリコン プロセッサ
HDD	120MB 以上の空き容量
対応デバイス(*)	Rio3224-D、 Rio1608-D、 Ri8-D、 Ro8-D (V3.11 以降) RSio64-D (V3.10 以降) RMio64-D (V3.11 以降) Tio1608-D、 Rio3224-D2、 Rio1608-D2 (V1.00 以降) Tio1608-D2 (V2.00 以降) Rio3224-D3、 Rio1608-D3
その他	• Ethernet 端子(1000BASE-T 以上) • Ethernet ケーブル(CAT5e 以上) • ネットワークスイッチ(ギガビットイーサネット対応) ※ネットワーク経由で接続する場合 • Dante Controller がインストールされていること(**)

(*) 本体ファームウェアのバージョンが古い場合は、各デバイス専用のアップデーターでアップデートする必要があります。

(**) 下記 Audinate 社ウェブサイトの Dante Controller ダウンロードページからダウンロードしてご利用ください。

<https://www.audinate.com/products/software/dante-controller/>

NOTE

上記の動作環境は、R Remote V6.0 に対するものです。ソフトウェアの最新バージョン、および動作環境については、下記 URL に最新情報が掲載されています。

<http://www.yamahaproaudio.com/>

■ 操作について

ショートカット

ショートカットは、<Windows のキー> (<Mac のキー>) + <キー> またはクリックと記しています。たとえば、<Ctrl> (<command>) + クリックは、Windows では <Ctrl> キーを押したまま、Mac では <command> キーを押したまま、クリックをします。

右クリック

Mac では <Control> キーを押しながらクリックをしてください。

セットアップ

以下の流れでセットアップをします。

- 1 [R Remote をインストールする\(P.6\)](#)



- 2 [デバイスの設定をする\(P.7\)](#)



- 3 [コンピューターとデバイスを接続する\(P.10\)](#)

NOTE

DANTE DOMAIN MANAGER を使って別サブネットにつながっているデバイスは接続できません。



- 4 [デバイスの電源を入れる\(P.10\)](#)



- 5 [コンピューターの IP アドレスを設定する\(P.11\)](#)



- 6 [Dante Controller または CL/QL/RIVAGE PM/DM7/DM3 シリーズでルーティングをする\(P.13\)](#)

デバイスの結線や設定の詳細については、各デバイスの取扱説明書も合わせてご参照ください。

R Remote をインストール(アンインストール)する

以下の手順で、インストールできます。

1. 管理者権限のあるアカウントで Windows にログオン、または Mac にログインします。
2. ダウンロードした圧縮ファイルの解凍先にある「Install_R_Remote.exe」(Windows)または「Install R Remote Vxxx.pkg」(Mac)(xxx はバージョン)をダブルクリックします。

R Remote のセットアップダイアログが表示されます。

NOTE

- ・ Windows で「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[続行]または[はい]をクリックします。
- ・ 「Dante Discovery」および「Dante Control and Monitoring」機能のインストールを促すダイアログが表示される場合、対応したバージョンの Dante Controller 等のインストールが必要です。詳細はヤマハ プロオーディオ ウェブサイトをご参照ください。

3. 画面の指示に従ってインストールを実行します。

アンインストール (アプリケーションを削除)するには、

Windows

[\[コントロールパネル\]](#)→[プログラムと機能]または[プログラムのアンインストール]で、削除したい項目を選択し、[アンインストールと変更]をクリックします。

ダイアログが表示されますので、画面の指示に従って削除を実行してください。

「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[続行]または[はい]をクリックしてください。

Mac



インストーラーに同梱されている「Uninstall R Remote.app」をダブルクリックします。

デバイスの設定をする

以下の設定項目に注意してディップスイッチや[UNIT ID]ロータリースイッチを設定してください。
Rio3224-D2、Rio1608-D2、Rio3224-D3、Rio1608-D3 は本体フロントパネルのディスプレイで設定します。

UNIT ID





- UNIT ID は 0 から 7F までの範囲で、24 台まで重複しないように設定してください。
- Rio3224-D2、Rio1608-D2、Rio3224-D3、Rio1608-D3：SETUP メニューの「UNIT ID」で設定します。
- Rio3224-D2、Rio1608-D2、Rio3224-D3、Rio1608-D3 以外：ディップスイッチの設定は以下の組み合わせにしてください。

設定	ディップスイッチ
UNIT ID の範囲を 0 から F	 (1 を上)
UNIT ID の範囲を 10 から 1F	 (1 を下)

IP アドレス

R Remote でコントロールするための IP アドレスを設定します。
(ここで設定する IP アドレスは、Dante ネットワークの IP アドレスとは異なります。)

Tio1608-D、Tio1608-D2、RMio64-D、Rio3224-D2、Rio1608-D2、Rio3224-D3、Rio1608-D3 以外

設定	ディップスイッチ
Auto IP (自動的に IP アドレスを 169.254.xxx.xxx に設定する)	 (2 と 3 を上)
DHCP (DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスを設定する)	 (2 が下で、3 が上)
Static IP (Auto) (IP アドレスを 192.168.0.xxx (xxx= UNIT ID)に設定する)	 (2 が上で、3 が下)
Static IP (Manual) (IP アドレスを R Remote などで設定した値に設定する)	 (2 と 3 を下)





R シリーズを初めてコンピューターと接続するときは、Static IP (Manual)以外に設定してください。また、Static IP (Manual)を設定したい場合は、R Remote から IP アドレスを設定したあとで Static IP (Manual)に切り替えてください。

NOTE

Dante 機器および R Remote だけでネットワークを構築している場合は、Auto IP にすることをおすすめします。既存のネットワークに接続する場合は、DHCP を必要に応じて選択してください。

固定 IP アドレスを設定する場合は Static IP にしてください。ゾーニングなどで IP アドレスを指定したり、既存のネットワークに接続するが IP アドレスを固定したりする場合は、Static IP (Manual)にして R Remote で IP アドレスを設定してください。

Tio1608-D、Tio1608-D2

設定	ディップスイッチ
Auto IP (Link Local) (自動的に IP アドレスを 169.254.xxx.xxx に設定する)	 5 6 (5 と 6 を上)
DHCP (DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスを設定する)	 5 6 (5 が上で、6 が下)
Static IP (Auto) (IP アドレスを 192.168.0.xxx (xxx= UNIT ID)に設定する)	 5 6 (5 が下で、6 が上)
Static IP (Manual) (IP アドレスを R Remote など設定した値に設定する)	 5 6 (5 と 6 を下)

RMio64-D

RMio64-D はディップスイッチでの IP アドレス設定に対応していないため、R Remote を使って設定します。詳細は [「IP Address」ダイアログ](#) を参照してください。

Rio3224-D2、Rio1608-D2



SETUP メニューの「NETWORK MODE」で設定します。

Rio3224-D3、Rio1608-D3



Dante ネットワークのアドレスおよびネットワークポートのアドレスでコントロールできます。
 Dante ネットワークの IP アドレスは、Dante Controller から設定します。
 ネットワークポートは、CONTROL メニューの「NW PORT」で設定します。

接続方法

RSio64-D、Rio3224-D2、Rio1608-D2、Rio3224-D3、Rio1608-D3 以外

設定	ディップスイッチ
DAISY CHAIN	 4 (4 を上)
REDUNDANT	 4 (4 を下)

RMio64-D

設定	ディップスイッチ
DAISY CHAIN	 1 (1 を上)
REDUNDANT	 1 (1 を下)

Rio3224-D2、Rio1608-D2

SETUP メニューの「SECONDARY PORT」で設定します。

Rio3224-D3、Rio1608-D3



SETUP メニューの「SEC. PORT」で設定します。

START UP MODE


NOTE

CL/QL/RIVAGE PM/DM7/DM3 シリーズを接続していない場合、START UP MODE を RESUME にすることをおすすめします。REFRESH にすると、R シリーズを再起動するたびに、R Remote から設定を送る必要があります。

Rio3224-D、Rio1608-D、Ri8-D、Tio1608-D、Tio1608-D2

設定	ディップスイッチ
REFRESH デバイスの電源をオンにしたとき、以下の設定を初期化し、入出力をミュートする。 <ul style="list-style-type: none">・ HA GAIN (-6 dB)・ +48V (OFF)・ HPF (OFF)・ HPF FREQ (80Hz)・ Gain Compensation (OFF) (Tio1608-D、Tio1608-D2 を除く) NOTE 初期化後デバイスを使用するには、電源オフ→ディップスイッチを RESUME に設定→電源オンの操作をする必要があります。	 7 8 (7 と 8 を上)
RESUME (前回電源をオフにする前の状態で起動する)	 7 8 (7 を下、8 を上)

RSio64-D

設定	ディップスイッチ
NORMAL (前回起動時の設定で、通常起動する)	 7 8 (7 と 8 を上)
INITIALIZE デバイスの電源をオンにしたとき、以下の設定を初期化する。 <ul style="list-style-type: none">・ SLOT 1-4 SRC (OFF)・ WORD CLOCK SELECT (DANTE/48kHz)・ USER PATTERN (プリセットの PATTERN #1 と同じルーティング設定)・ Static IP (Manual) (0.0.0.0)・ パネルロック (ロック解除)・ Dante パッチ (すべて OFF)・ Dante デバイスラベル (Y001-Yamaha-RSio64-D-123456) (*1) NOTE 初期化後デバイスを使用するには、電源オフ→ディップスイッチを NORMAL に設定→電源オンの操作を必要があります。	 7 8 (7 を下、8 を上)

(*1) Dante デバイスラベルの 3、4 文字目は機器設定ディップスイッチ 1 および SETUP[UNIT ID]ロータリースイッチに依存しません。また下 6 桁は本体の MAC アドレスの下 6 桁に依存します。

Rio3224-D2、Rio1608-D2、Rio3224-D3、Rio1608-D3

SETUP メニューの「START UP MODE」(Rio3224-D3、Rio1608-D3 は「START UP」)で設定します。

設定

REFRESH

デバイスの電源をオンにしたとき、以下の設定を初期化し、入出力をミュートする。

- ・ HA GAIN (-6 dB)
- ・ +48V (OFF)
- ・ HPF (OFF)
- ・ HPF FREQ (80Hz)
- ・ GAIN COMPENSATION (OFF)
- ・ COMPENSATION GAIN (-6 dB)

RESUME

(前回電源をオフにする前の状態で起動する。)

REFRESH w/o MUTE

(デバイスの電源をオンにしたとき、設定を初期化する。初期値は REFRESH と同じ。ただし入出力はミュートしない。)

コンピューターとデバイスを接続する

コンピューターとデバイスを Ethernet ケーブルでつなぎます。

上記の接続方法で DAISY CHAIN にした場合は、数珠つなぎにデバイスの Dante 端子とコンピューターをつないでください。

上記の接続方法で REDUNDANT にした場合は、Dante の[PRIMARY]端子に接続されているネットワークスイッチにコンピューターをつないでください。Rio3224-D3、Rio1608-D3 の場合は、コントロール専用ポートにつなぐこともできます。

NOTE

DANTE DOMAIN MANAGER などによって、コンピューターと別のサブネットに接続されているデバイスは接続できません。

デバイスの電源を入れる

デバイスの電源を入れます。電源を入れた後に変更したディップスイッチ、ロータリースイッチ、ディスプレイ操作の設定は、再度電源を入れなおすまで反映されません。

コンピューターの IP アドレスを設定する

デバイスと通信をするために、コンピューターの IP アドレスを設定します。

Windows と Mac で設定方法が異なります。また、「[デバイスの設定をする](#)」の IP アドレス設定によってコンピューターの IP アドレス設定が異なります。

「[Mac の場合](#)」はリンクをクリックしてください。

Windows の場合

コントロールパネルを表示する

[スタート] → [Windows システムツール] → [コントロールパネル]を選びます。

TCP/IP を設定する

以下の手順でコンピューターの TCP/IP の設定を行います。

1. [コントロールパネル]→[ネットワークと共有センター]または[ネットワークの状態とタスクの表示]をクリックまたはダブルクリックします。
「ネットワークと共有センター」画面が表示されます。
2. 「ネットワークと共有センター」画面の左側の「タスク」一覧の中から[ネットワーク接続の管理]または[アダプターの設定変更]をクリックし、[ローカルエリア接続]をダブルクリックします。
「ローカルエリア接続の状態」ダイアログボックスが表示されます。

NOTE

- ・「ユーザーアカウント制御」ダイアログボックスが表示されることがあります。[続行]または[はい]をクリックしてください。
- ・「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示された場合、手順 4 に進んでください。

3. [プロパティ]をクリックします。

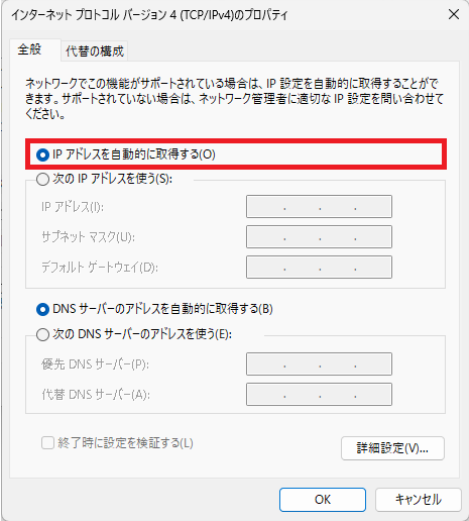
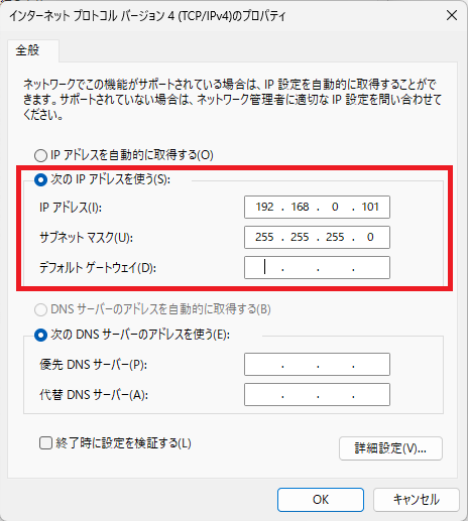
「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

NOTE

- 「ユーザーアカウント制御」ダイアログボックスが表示されることがあります。[続行]または[はい]をクリックしてください。

4. [インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)]を選択して、[プロパティ]をクリックします。
「インターネット プロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

5. 「[デバイスの設定をする](#)」のIPアドレスの設定によって、以下のように設定します。

Auto IP または DHCP	Static IP (Manual)
<p>[IP アドレスを自動的に取得する(O)]をクリックする。</p>	<p>[次の IP アドレスを使う]をクリックし、IP アドレスに「192.168.0.xxx(1 から 254 までのうちで、デバイスを含めたほかの機器と重複しない値)」、サブネットマスクに「255.255.255.0」を入力する。下の 192.168.0.101 は例です。</p>
	

Static IP (Manual)の場合、ネットワークに適した設定をしてください。詳しくはネットワークの管理者にご相談ください。

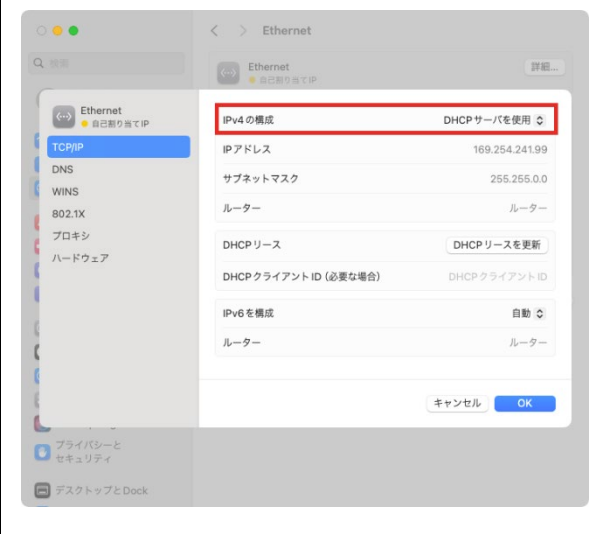
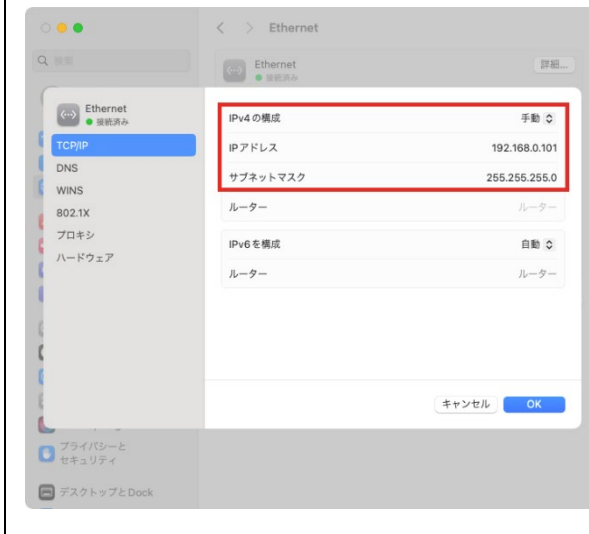
6. [OK]をクリックします。

「[Dante Controller または CL/QL/RIVAGE PM/DM7/DM3 シリーズでルーティングをする](#)」に進んでください。

Mac の場合

以下の手順で IP アドレスを設定します。

1. [システム環境設定]→[ネットワーク]をクリックします。
「ネットワーク」画面が表示されます。
2. デバイスと接続するサービスをクリックします。
Mac 内蔵の Ethernet 端子を使用する場合は、[Ethernet]をクリックしてください。
3. 「[デバイスの設定をする](#)」の IP アドレスの設定によって、以下のように設定します。

Auto IP または DHCP	Static IP (Manual)
「IPv4 の構成」で [DHCP サーバを使用] を選択する。	「IPv4 の構成」で [手動] を選択し、IP アドレスに「192.168.0.xxx(1 から 254 までのうち、デバイスを含めたほかの機器と重複しない値)」、サブネットマスクに「255.255.255.0」を入力する。 下の 192.168.0.101 は例です。
	

Static IP (Manual) の場合、ネットワークに適した設定をしてください。詳しくはネットワークの管理者にご相談ください。

4. [OK] をクリックしてから、「ネットワーク」画面を閉じます。

Dante Controller または CL/QL/RIVAGE PM/DM7/DM3 シリーズでルーティングをする

Dante Controller を使ってルーティングする場合は、「Dante Controller ユーザーガイド」を参照してください。Rio3224-D3、Rio1608-D3 の場合は、Dante Controller はコントロール専用ポートにつなげられません。

CL/QL/RIVAGE PM/DM7/DM3 シリーズを使ってルーティングする場合は、各リファレンスマニュアルを参照してください。

以上でセットアップは終了です。

R Remote を操作する

R Remote を起動します。

Windows 10 の場合：[スタート]→[Yamaha R Remote]→[R Remote]を選択

Windows 11 の場合：[スタート] →[すべてのアプリ]→[Yamaha R Remote]→[R Remote]を選択

Mac の場合：[移動]→[アプリケーション]→[R Remote]をダブルクリック

NOTE

デバイスと通信するためのコンピューターのネットワークカードを選択するための [\[Network Setup\] ダイアログ](#)が表示されることがあります。表示された場合、デバイスとつながっているネットワークカードをダブルクリックするか、ネットワークカードを選択して、[OK]ボタンをクリックしてください。

メニューバー

R Remote で実行できるコマンド(命令)が、カテゴリーごとにまとめられています。

クリックするとコマンドのリストが表示されます。



メニュー	コマンド	概要	呼び出されるダイアログ
[File]	[Open]	保存されているファイル(rrmt 形式または rrm 形式)を開きます。 注記 デバイスが接続されている状態でファイルを開くと、設定がデバイスに反映されます。 CL/QL/RIVAGE PM/DM7/DM3 シリーズなども接続している場合は、設定が上書きされますのでご注意ください。	「Open File」ダイアログ
	[Save As]	ファイルを保存します。拡張子は rrmt で、R Remote 専用のファイルになります。	「Save File」ダイアログ
	[Network Setup]	デバイスと通信するためのコンピューターのネットワークインターフェイスカードを選択します。	[Network Setup] ダイアログ
	[Device Information]	接続されているデバイスの情報を表示します。	[Device Information] ダイアログ
	[Meter (1Line)]	アサインされている対象のデバイスのメーターを 1 列で縦に並べて表示します。	[Meter] 画面
	[Meter (2Line)]	アサインされている対象のデバイスのメーターを 2 列で縦に並べて表示します。	[Meter] 画面
	[Quit] *1	R Remote を終了します。	---
[Tool]	[Firmware Update]	ファームウェアをアップデートするための画面を表示します。	R Remote Firmware Updater
[Zoom]	[100%]	画面表示を 100%にします。	---
	[150%]	画面表示を 150%にします。	---
	[200%]	画面表示を 200%にします。	---

	[Meter Zoom]	チェックを入れると、Meter(1Line/2Line)画面が、上記[100%]、[150%]、[200%]のサイズ変更の対象になります。チェックを入れないと100%固定です。初期値ではオフです(チェックが入っていません)。	---
[About] *1	[About R Remote]	R Remote のバージョンなどの詳細情報を表示します。	「About R Remote」ダイアログ

*1 Mac の場合は、R Remote メニューの中にあります。

エリア構成

R Remote は機器選択エリア、情報表示エリア、メインエリアの大きく 3 つの部分に分かれます。

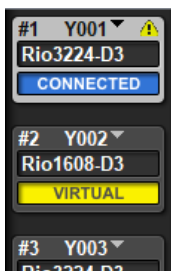
機器選択エリア

情報表示エリア



メインエリア

機器選択エリア



機器選択エリアには、表示切り替えボタン#1～24 が縦に並んでいます。

表示切り替えボタンをクリックすると、対応するデバイスが情報表示エリアとメインエリアに表示されます。

表示切り替えボタンの▼をクリックすると、UNIT ID が選択できます。初期状態では UNIT ID は未選択になっているため、デバイスは接続されません。対象となるデバイスの UNIT ID を選択してください。

NOTE

V5.9 以前の R Remote で保存したファイルを読み込んだ場合、Rack 1～24 に対してデバイスの UNIT ID 1～24 が順番にアサインされます。

V6.0 以降の R Remote で保存したファイルを読み込んだ場合、V5.9 以前の R Remote で読み込んだ場合、デバイスの UNIT ID の設定は反映されません。従来通りに 1～24 が固定でアサインされたままとなります。

表示切り替えボタンが選択されている状態でマウスの左ボタンを押すと、該当するデバイスの全インジケータが点滅するので、対応する機器本体を識別することができます。

また、デバイスの状態に応じてアラート  を表示します。

表示切り替えボタンを右クリックすると、以下のコンテキストメニューが開きます。

コマンド	概要
[Mount]	「Mount」ダイアログが表示されます。マウントする機器を選択してください。
[Connect]	選択されている機器と同期状態にします。
[Disconnect]	選択されている機器と切断状態にします。
[Properties]	「Properties」ダイアログ が表示されます。
[Summary] (Rio3224-D2、Rio1608-D2のみ)	デバイスの Summary (REPORT 情報)を取得し、表示します。
[Log] (Rio3224-D2、Rio1608-D2、Rio3224-D3、Rio1608-D3のみ)	ファイル名は自動的に付けられます。 Rio3224-D2、Rio1608-D2 はデバイスの LOG 情報を取得後、ファイル保存先を選択します。 Rio3224-D2 の場合： Rio3224-D2_201712261339.log * 数字は"年号"月"日付"時間"です。 Rio3224-D3、Rio1608-D3 はファイル保存先を選択後、LOG 情報を取得します。

表示切り替えボタンの下側には接続状態が表示されます。

表示	状態
VIRTUAL	実際の機器が存在しない状態で、機器をマウントしている。 または、設定が間違っていて通信できない。
BLANK	機器をマウントしていない。
CONNECTING	機器と同期中になっている。
CONNECTED	機器と同期状態になっている。
DISCONNECTED	機器と同期可能だが、[Disconnect]コマンドで切断状態になっている。または通信が途切れたか、接続に失敗している。
DUPLICATED	同じ UNIT ID の機器が複数存在する。機器の UNIT ID の重複を解消してください。

情報表示エリア

選択されている機器の UNIT ID と名称を表示します。

ファームウェアのバージョンや IP アドレスを確認する場合は、[File]メニュー→[Device Information]で「[Device Information](#)」ダイアログを開いてください。

メインエリア

選択されたデバイスの状態やパラメーターの簡易設定をします。モデルによって表示が異なります。

◆インプット画面

[Rio3224-D / Rio1608-D / Ri8-D / Tio1608-D / Rio3224-D2 / Rio1608-D2 / Tio1608-D2 / Rio3224-D3 / Rio1608-D3](#) の場合

画面は Rio3224-D3 の場合で説明しています。モデルによって HA 表示部の数が変わります。[INPUT]ボタン、[OUTPUT]ボタンは Rio3224-D3、Rio1608-D3 のみ表示されます。

操作子以外のところをダブルクリックまたは右クリックで[Open Edit Window]を選択すると、[Edit ウィンドウ \(インプット\)](#)が表示されます。



① HA 表示部

[Rio3224-D / Rio1608-D / Ri8-D / Tio1608-D / Rio3224-D2 / Rio1608-D2 / Tio1608-D2 / Rio3224-D3 / Rio1608-D3](#) の HA の設定を表示/設定します。

機器の端子番号が表示されている部分でマウスの左ボタンを押すと、機器本体の該当端子のインジケータが点灯します。



⑨ [+48V]ボタン

チャンネルごとのファンタム電源のオン/オフを切り替えます。

⑩ GAIN ノブ

機器の HA のアナログゲイン量を設定します。現在の設定値はノブの下にある数値ボックスで確認できます。選択している GAIN ノブや数値ボックスはピンクの枠で囲まれ、コンピューターの[tab]ボタンで次のチャンネルに移動できます。

数値ボックスをダブルクリックすると、キーボードで直接入力できます。

また、ノブのすぐ右側にあるレベルメーターで、対応するポートの入力レベルを確認できます。

ノブ部分でのショートカットやコンテキストメニューには次のものがあります。



操作	動作
<Ctrl> (<command>) + クリック	アナログゲイン量を初期値(-6dB)にします。
<Ctrl> (<command>) + <Shift> + クリック	アナログゲイン量を 0dB にします。
右クリック	以下のコンテキストメニューを表示します。 [All Default] 全チャンネルのアナログゲイン量を初期値(-6dB)にします。 [All 0dB] 全チャンネルのアナログゲイン量を 0dB にします。

⑪ [HPF]ボタン

機器の HA に内蔵されているハイパスフィルターのオン/オフを切り替えます。カットオフ周波数を設定する場合は、[Edit ウィンドウ \(インプット\)](#)で設定してください。



⑫ [+48V ACTIVE]インジケータ

機器のファンタム電源のオン/オフ状態が表示されます (オン/オフの切り替えは、機器本体で行います。)

NOTE

Tio1608-D2、Rio3224-D3、Rio1608-D3 以外は、[+48V MASTER]と表示されます。また、Tio1608-D2 を Tio1608-D Compatibility Mode で使用している場合も、[+48V MASTER]と表示されます。

⑬ [SYSTEM]インジケータ/[SYNC]インジケータ

機器の状態や Dante の状態を表示します。マウスカーソルをこの部分に持ってくると、表示の内容をポップアップします。また、デバイスの状態に応じてインフォ  やアラート  を表示します。

⑭ [PEAK HOLD]ボタン

このボタンをオンにすると、各レベルメーターのピークが保持されます。オフにすると、保持されていたピークが解除されます。

⑮ [INPUT]ボタン/[OUTPUT]ボタン (Rio3224-D3、Rio1608-D3 のみ)

[INPUT]ボタンを押してインプット画面を表示し、[OUTPUT]画面を押してアウトプット画面を表示します。

Edit ウィンドウ (インプット)

メインエリア(Rio3224-D3、Rio1608-D3 の場合は INPUT 画面)の操作子以外のところをダブルクリック、または右クリックで[Open Edit Window]を選択すると表示されます。Edit ウィンドウは、2 画面同時に表示できます(V6.0 以降)。

機器の HA の詳細設定を表示/設定をします。ウィンドウを閉じるときは、Windows は右上の[×]ボタンをクリック、Mac は左上の[×]ボタンをクリックします。

画面は Rio3224-D3 の場合で説明しています。モデルによって表示ポート切り替えタブの数が変わります。



① デバイス名

機器の UNIT ID とデバイス名を表示します。

② [PEAK HOLD]ボタン

このボタンをオンにすると、各レベルメーターのピークが保持されます。オフにすると、保持されていたピークが解除されます。

③ 表示ポート切り替えタブ

表示するポートを切り替えます。

④ ポートインデックス

機器のポート番号が表示されます。マウスの左ボタンを押すと、機器本体の該当ポートのインジケーターが点灯します。

⑤ [+48V]ボタン

ファンタム電源のオン/オフを切り替えます。

⑥ [A.GAIN]ノブ

機器の HA のアナログゲイン量を設定します。現在の設定値はノブの下にある数値ボックスで確認できます。

数値ボックスをダブルクリックすると、キーボードで直接入力できます。

また、ノブのすぐ右側にあるレベルメーターで、対応するポートの入力レベルを確認できます。

ノブ部分でのショートカットやコンテキストメニューには以下のものがあります。

操作	動作
<Ctrl> (<command>) + クリック	アナログゲイン量を初期値(-6dB)にします。
<Ctrl> (<command>) + <Shift> + クリック	アナログゲイン量を 0dB にします。
右クリック	以下のコンテキストメニューを表示します。 [All Default] 全チャンネルのアナログゲイン量を初期値(-6dB)にします。 [All 0dB] 全チャンネルのアナログゲイン量を 0dB にします。

[A.GAIN]ノブと数値ボックスの選択(ピンクの枠)は、コンピューターの[tab]ボタンで次のチャンネルに移動できます。

⑦ [GC]ボタン

オーディオネットワーク上の信号レベルを一定にするゲインコンペーンションのオン/オフを切り替えます。オンにすると、ゲインコンペーンションにより固定されたゲイン値が表示され、それ以降のアナログゲインの変更は機器内蔵のコンペーンションゲインで補正されます。Dante ネットワークには有効にする直前の値に固定されたゲイン量で音声を送出されます。

NOTE

コンペーンションゲインには限界があります。ノブの左方向には 24dB、右方向には 48dB までしか補正しません。たとえば 30dB でゲインコンペーンションをかけると、アナログゲインを 6dB にするまでは補正を維持しますが、アナログゲインを 4dB にすると送化するゲイン値は 28dB になります。この状態で 6dB 以上に戻すと、また 30dB にするための補正をかけます。

⑧ [FREQ]ノブ/[HPF]ボタン

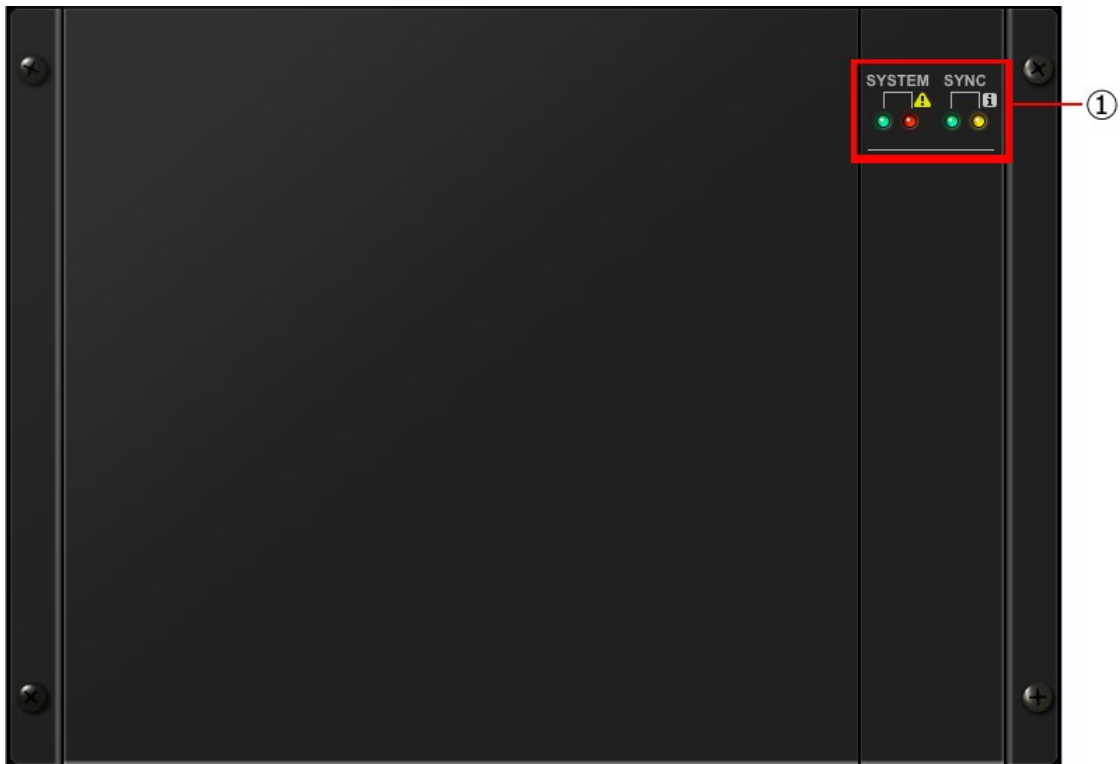
機器の HA に内蔵されているハイパスフィルターのオン/オフ切り替え、およびカットオフ周波数の調節を行います。現在の設定値は、ノブの下にある数値ボックスで確認できます。数値ボックスをダブルクリックすると、キーボードで直接入力できます。

[FREQ]ノブの上で<Ctrl> (<command>) + クリックをすると、カットオフ周波数が初期値(80Hz)になります。



[FREQ]ノブと数値ボックスの選択(ピンクの枠)は、コンピューターの[tab]ボタンで次のチャンネルに移動できます。

Ro8-D の場合

Ro8-D では操作できる設定が無い場合、[SYSTEM]インジケータと[SYNC]インジケータのみが表示されます。

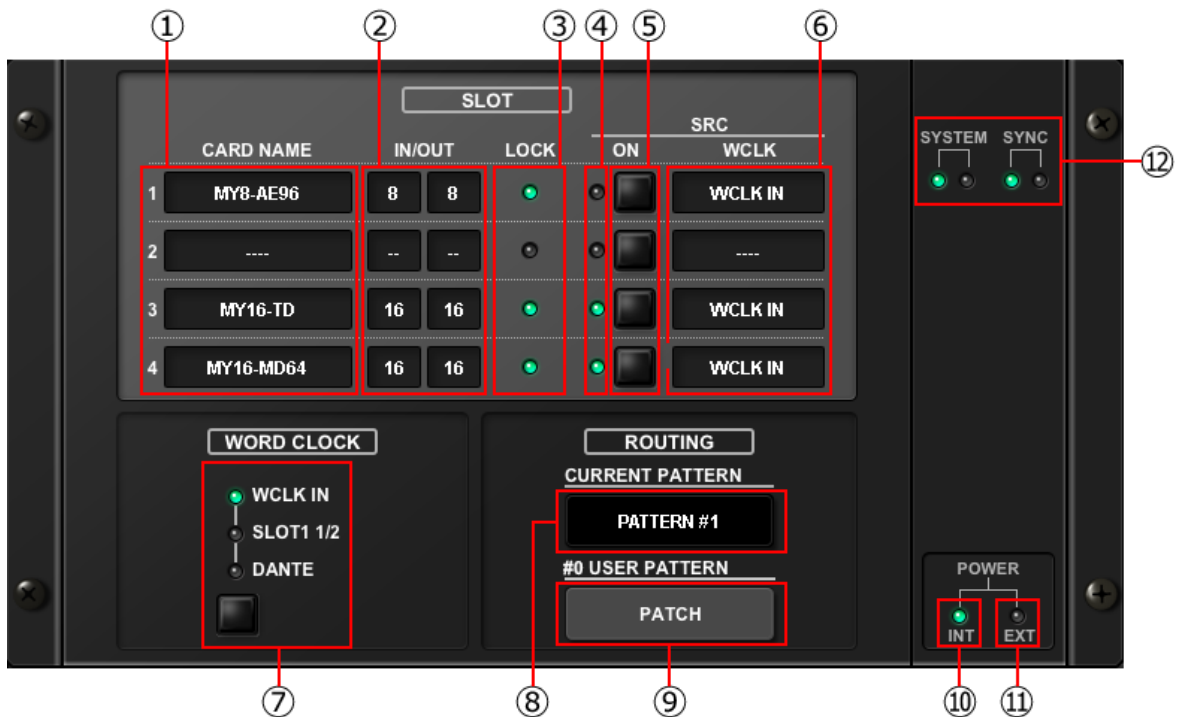


① [SYSTEM]インジケータ/[SYNC]インジケータ

機器の状態や Dante の状態を表示します。マウスカーソルをこの部分に持ってくると、表示の内容をポップアップします。また、デバイスの状態に応じてインフォ  やアラート  を表示します。

RSio64-D の場合

RSio64-D の設定を変更できます。



① カード名

スロット 1~4 に装着されている各カードの名前が表示されます。未装着の場合は、「---」と表示されます。MY8-AE96 が装着されているとき、カードの内蔵サンプリングコンバーター機能がオンになると、「AE96S(w/SRC)」と表示されます。

② IN/OUT PORT

スロット 1~4 に装着されている各カードの入力ポート数および出力ポート数が表示されます。カードが装着されていない場合は、「 -- 」と表示されます。

③ SLOT1~4 [LOCK]インジケータ

スロット 1~4 のワードクロックの状態(ステータス)を表示します。正常に動作しているときは、緑色で点灯します。

消灯	スロットにカードが挿入されていない。または未対応のカードが挿入されています。
緑(点灯) LOCK	WORD CLOCK セレクトキーで選択したクロックソースと同期したクロックが、カードから入力されていることを示します。該当するスロットに外部機器が接続されている場合は、その機器と RSio64-D との間で正常に入出力が行われています。なお、サンプリング周波数が近接している場合、非同期であってもこのステータスを示すことがあります。
緑(点滅) SYNC ERROR	カードからは有効なクロックが入力されていますが、WORD CLOCK セレクトキーで選択したクロックソースとは同期していません。該当するスロットに外部機器が接続されている場合、その機器と RSio64-D の間では、正常に入出力が行えません。SRC を ON にすることで正常に入出力を行えます。
赤(点灯) UNLOCK	カードから有効なクロックが入力していません。該当するスロットに外部機器が接続されている場合、その機器と RSio64-D との間では、正常に入出力を行えません。
赤(点滅) WRONG WORD CLOCK	WORD CLOCK セレクトキーで選択したクロックソースの周波数が、スロットに挿入されたカードの動作周波数範囲外です。クロックソースの周波数をカードの動作範囲内にするか、SRC をオンにしてください。また、アナログカードの場合は、SRC をオンにすることによって、RSio64-D 内蔵の 48kHz で動作します。

④ SLOT1～4 [SRC]インジケータ

スロット 1～4 の SRC(Sampling Rate Converter)の状態を表示します。

消灯	SRC がオフになっています。
緑(点灯)	SRC がオンで、RSio64-D の SRC WCLK ディップスイッチで選択したクロックが正常に 入力されています。
赤(点灯)	SRC はオンになっていますが、適切なクロックが入力されていません。RSio64-D の SRC WCLK ディップスイッチで選択したクロックが入力されていないか、動作範囲外であること が考えられます。SRC をオフにするか、ディップスイッチの設定を変更してください。

NOTE

スロットに挿入した Mini-YGDAI カードへの SRC クロックは、RSio64-D の SRC WCLK ディップスイッチで選択します。

⑤ SLOT1～4 [SRC]ボタン

スロットの IN 側、OUT 側両方の SRC のオン/オフをスロットごとに切り替えます。

⑥ WORD CLOCK ソース

スロット 1～4 の SRC のワードクロックソースを表示します。

SLOT	スロットに挿入されているカードのワードクロック信号を使用している場合。
WCLK IN	リアパネルの WORD CLOCK IN 端子から入力されているワードクロック信号を使用してい る場合。
CARD	カードの内蔵サンプリングコンバーター機能がオンになっている場合。
----	カードが挿入されていない場合。

⑦ WORD CLOCK セレクトボタン

RSio64-D 本体のワードクロックソースを選択します。

- ・ WORD CLOCK WCLK IN インジケータ
- ・ WORD CLOCK SLOT1 1/2 インジケータ
- ・ WORD CLOCK DANTE インジケータ

RSio64-D 本体のワードクロックソースの状態を表示します。

WCLK IN	RSio64-D のリアパネルの WORD CLOCK IN 端子から入力されているワードクロック信号 を使用している場合に点灯します。有効なワードクロック入力がない場合は点滅*1 します。
SLOT1 1/2	RSio64-D のスロット 1 のチャンネル 1/2 のワードクロックを使用している場合に点灯し ます。有効なワードクロック入力がない場合は点滅*1 します。MY8-AEB 使用時*2 はチャ ンネル 7/8 のワードクロックを使用します。
DANTE	Dante ネットワークのワードクロック*3 を使用している場合に点灯します(有効な Dante 信 号入力がない場合は、内蔵 Dante モジュールが生成するクロックで動作します)。

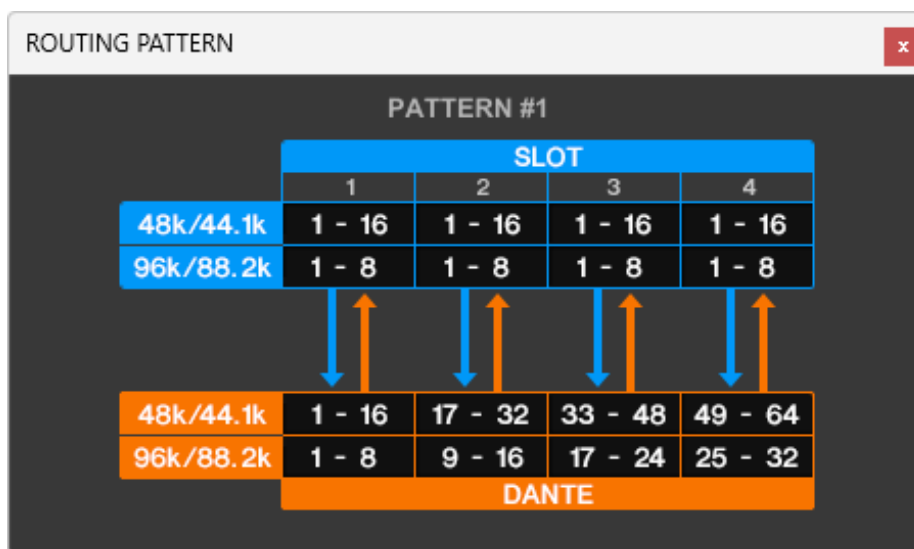
*1 点滅時は Dante ワードクロック*3 で動作し、入出力が行えます。

*2 MY8-AEB を使用する場合は、カードの AE ⇄ RSVD スイッチを RSVD 側に設定してからご使用く
ださい。

*3 Dante ワードクロックの周波数を変更する場合は、Dante Controller を使用してください。

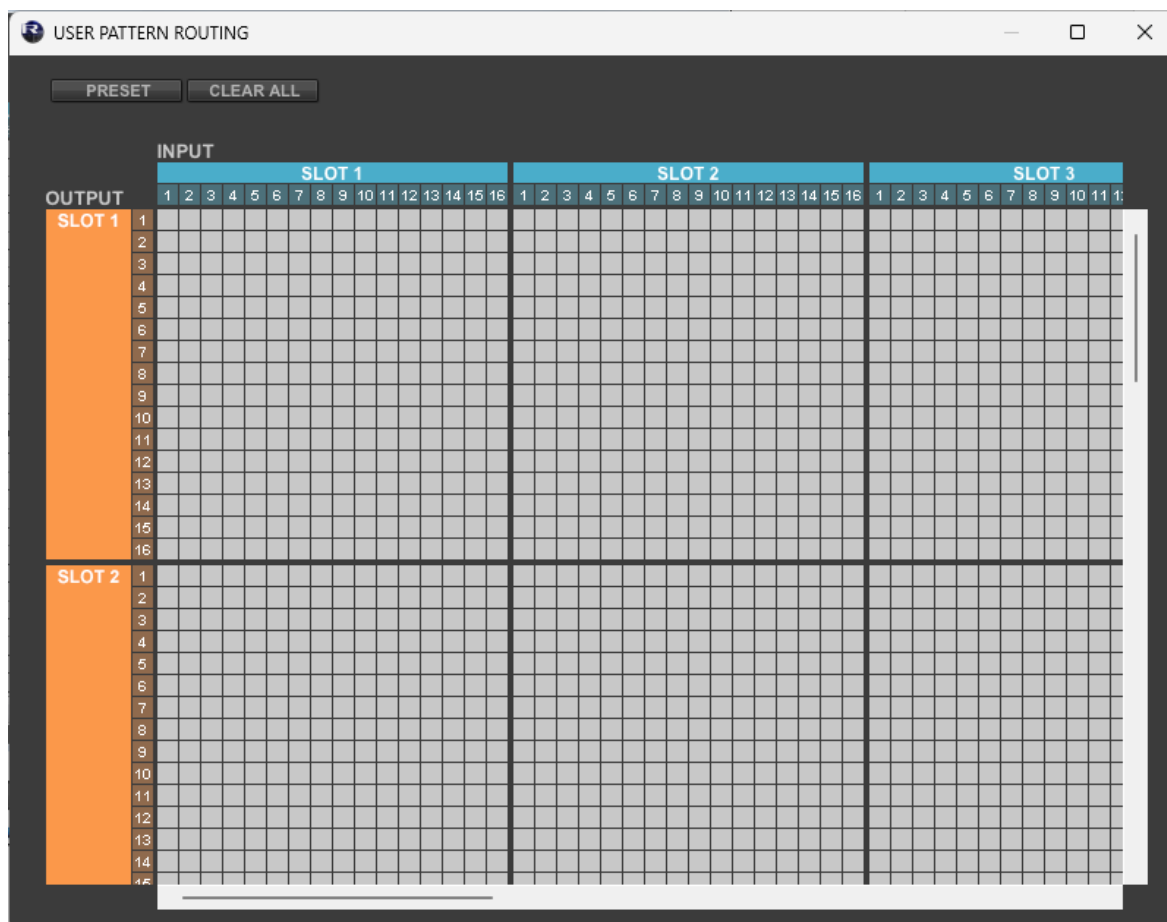
⑧ [CURRENT PATTERN]ボタン


ボタンをクリックすると、RSio64-D 本体内で現在選択されているルーティングパターンを表示します。RSio64-D でルーティングパターンを切り替えた場合は、3 秒経つと反映されます。




⑨ [USER PATTERN]ボタン

ボタンをクリックすると、RSio64-D 本体内のルーティングユーザーパターンを設定する USER PATTERN ROUTING 画面が開きます。



*PRESET ボタン 

パッチ編集のテンプレートとして、プリセットパターン 1~7 から選択して呼び出します。

*CLEAR ALL ボタン 

パッチのすべてがクリアされます。



⑩ POWER INT インジケーター

RSio64-D の AC IN 電源の通電状態を表示します。

⑪ POWER EXT インジケーター

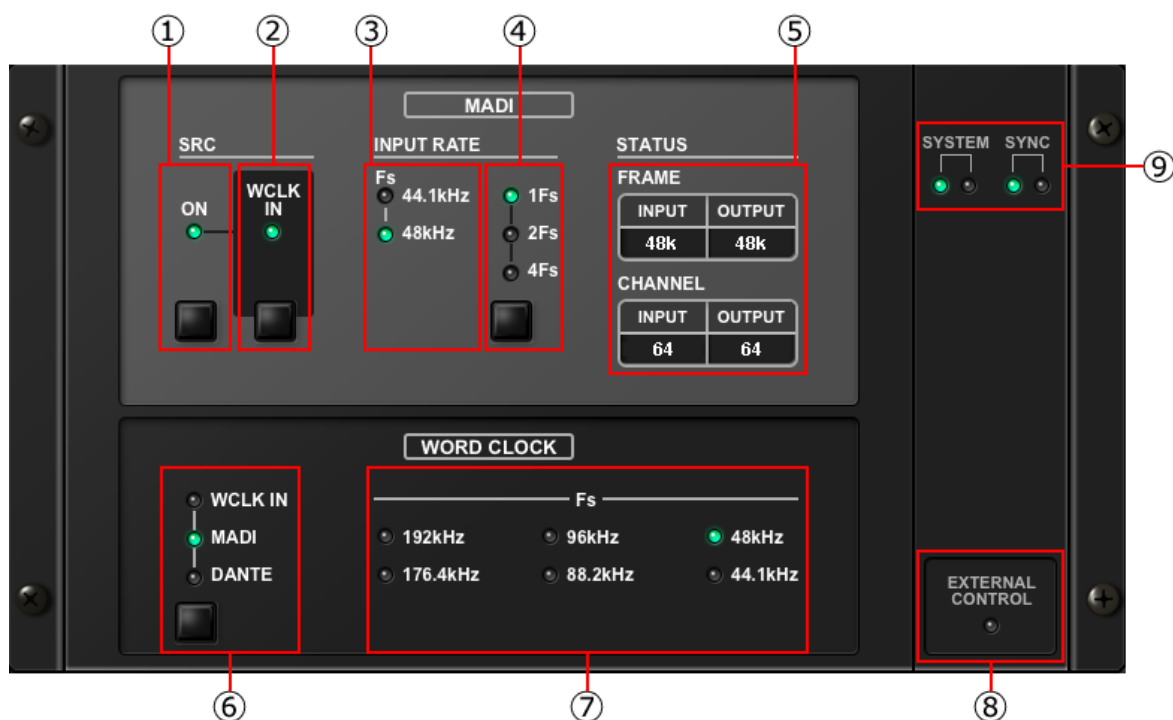
RSio64-D の EXT DC INPUT 電源の通電状態を表示します。EXT DC INPUT 電源が供給されていれば点灯します。

⑫ [SYSTEM]インジケーター/[SYNC]インジケーター

機器の状態や Dante の状態を表示します。マウスカーソルをこの部分に持ってくると、表示の内容をポップアップします。また、デバイスの状態に応じてインフォ  やアラート  を表示します。

RMio64-D の場合

RMio64-D の設定を変更できます。



① MADI [SRC ON]インジケータ

MADI [SRC ON]ボタン

SRC (Sampling Rate Converter)のオン/オフを切り替えます。

② MADI [SRC WCLK IN]インジケータ

MADI [SRC WCLK IN]ボタン

RMio64-D のリアパネルの MADI WCLK IN FOR SRC 端子から入力されているワードクロックを SRC の基準クロックとして使用する(点灯)/使用しない(消灯)を切り替えます。

③ MADI [INPUT RATE Fs 44.1kHz]インジケータ

MADI [INPUT RATE Fs 48kHz]インジケータ

MADI の入力信号が 44.1 kHz ベースか 48 kHz ベースかを自動判別して点灯します。有効な MADI の入力信号がないときは消灯します。

④ MADI [INPUT RATE 1Fs]インジケータ

MADI [INPUT RATE 2Fs]インジケータ

MADI [INPUT RATE 4Fs]インジケータ

MADI [INPUT RATE] 1Fs/2Fs/4Fs ボタン

MADI の入力周波数に合わせて 1Fs(1 倍)/2Fs(2 倍)/4Fs(4 倍)を選択します。たとえば MADI の入力信号が 192kHz(48 kHz の 4 倍)のときは、MADI INPUT RATE Fs 48kHz インジケータが点灯していることを確認して「4Fs」を選択します。

NOTE

「2Fs」選択時は、MADI 入力信号のフレーム周波数 (48 kHz/96 kHz) を本体が自動判別します。

⑤ MADI [STATUS INPUT]ステータス

MADI [STATUS OUTPUT]ステータス

MADI の入力信号と出力信号の情報(フレーム周波数/チャンネル数)を表示します。

⑥ WORD CLOCK [WCLK IN]インジケータ

WORD CLOCK [MADI]インジケータ

WORD CLOCK [DANTE]インジケータ

WORD CLOCK [WCLK IN/MADI/DANTE]ボタン

ワードクロックソースを選択します。

WCLK IN	RMio64-D のリアパネルの WORD CLOCK IN 端子から入力されているワードクロック信号を使用します。有効なワードクロック入力がないときはインジケータが点滅します。
MADI	MADI 入力信号のワードクロックを使用します。有効なワードクロック入力がないときはインジケータが点滅します。
DANTE	Dante ネットワークのワードクロックを使用します。

⑦ WORD CLOCK [Fs]インジケータ



本体が動作しているワードクロック周波数を表示します。同期が取れていないときは点滅します。

⑧ [EXTERNAL CONTROL] インジケータ

外部からのリモートコントロールでのみ操作できるパラメーターが有効になっているときに点灯します。

リモートコントロールで操作できるパラメーターについては RMio64-D の取扱説明書の「リモートコントロール」をご参照ください。

⑨ [SYSTEM]インジケータ/[SYNC]インジケータ

機器の状態や Dante の状態を表示します。マウスカーソルをこの部分に持ってくると、表示の内容をポップアップします。また、デバイスの状態に応じてインフォ  やアラート  を表示します。

Tio1608-D、Tio1608-D2 の場合

Tio1608-D、Tio1608-D2 の設定を変更できます。



① デバイス名

機器の UNIT ID とデバイス名を表示します。

② [PEAK HOLD]ボタン

このボタンをオンにすると、各レベルメーターのピークが保持されます。オフにすると、保持されていたピークが解除されます。

③ 表示ポート切り替えタブ

表示するポートを切り替えます。

④ ポートインデックス

機器のポート番号が表示されます。マウスの左ボタンを押すと、機器本体の該当ポートのインジケータが点灯します。

⑤ [+48V]ボタン

ファンタム電源のオン/オフを切り替えます。

⑥ [A.GAIN]ノブ

機器の HA のアナログゲイン量を設定します。現在の設定値はノブの下にある数値ボックスで確認できます。

数値ボックスをダブルクリックすると、キーボードで直接入力できます。

また、ノブのすぐ右側にあるレベルメーターで、対応するポートの入力レベルを確認できます。

ノブ部分でのショートカットやコンテキストメニューには以下のものがあります。

操作	動作
<Ctrl> (<command>) + クリック	アナログゲイン量を初期値(-6dB)にします。
<Ctrl> (<command>) + <Shift> + クリック	アナログゲイン量を 0dB にします。

操作	動作
右クリック	以下のコンテキストメニューを表示します。 [All Default] 全チャンネルのアナログゲイン量を初期値(-6dB)にします。 [All 0dB] 全チャンネルのアナログゲイン量を 0dB にします。

[A.GAIN]ノブと数値ボックスの選択(ピンクの枠)は、コンピューターの[tab]ボタンで次のチャンネルに移動できます。

⑦ [FREQ]ノブ/[HPF]ボタン

機器の HA に内蔵されているハイパスフィルターのオン/オフ切り替え、およびカットオフ周波数の調節を行います。現在の設定値は、ノブの下にある数値ボックスで確認できます。数値ボックスをダブルクリックすると、キーボードで直接入力できます。

[FREQ]ノブの上で<Ctrl> (<command>) +クリックをすると、カットオフ周波数が初期値(80Hz)になります。

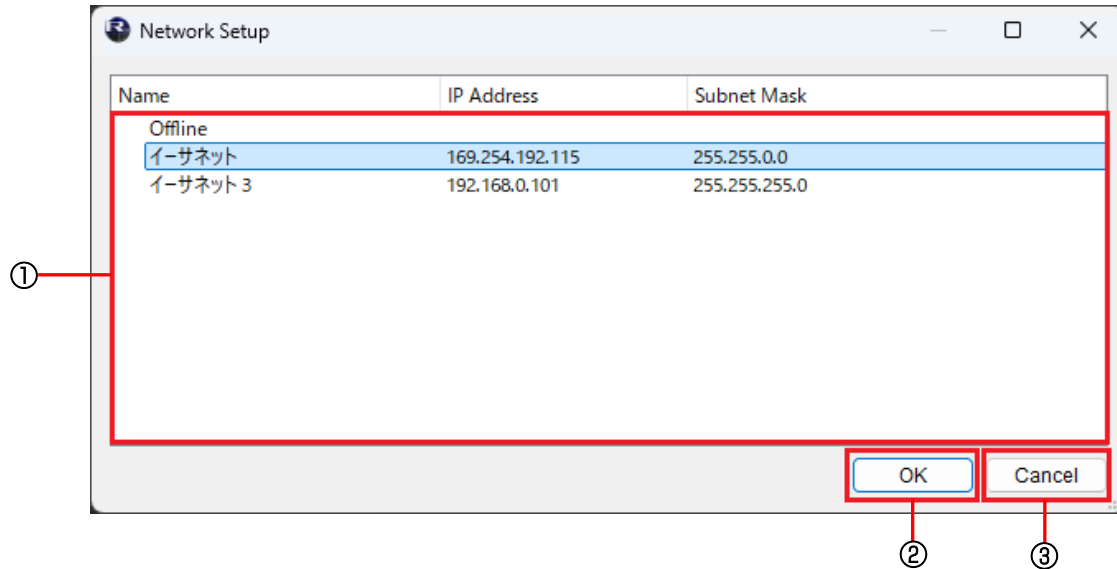
[FREQ]ノブと数値ボックスの選択(ピンクの枠)は、コンピューターの[tab]ボタンで次のチャンネルに移動できます。

「Network Setup」ダイアログ

[File]メニュー→[Network Setup]を選択すると表示されます。

デバイスと通信するためのコンピューターのネットワークインターフェイスカード(以下「ネットワークカード」と呼びます)を選択します。

注記 ネットワークカードを変更すると、各種パラメーター設定が初期化されます。変更前の設定をあとで使う場合は、設定をファイルに保存してからネットワークカードを変更してください。



① ネットワークカードリスト

デバイスと通信するためのネットワークカードを選択します。ネットワークカードをダブルクリックすると、ダブルクリックしたネットワークカードに設定してダイアログが閉じます。

デバイスをつなぐに設定のみをする場合は、[Offline]を選択してください。[Online]の状態ではネットワークカードを選択すると、接続されているネットワークに負荷がかかります。

② [OK]ボタン

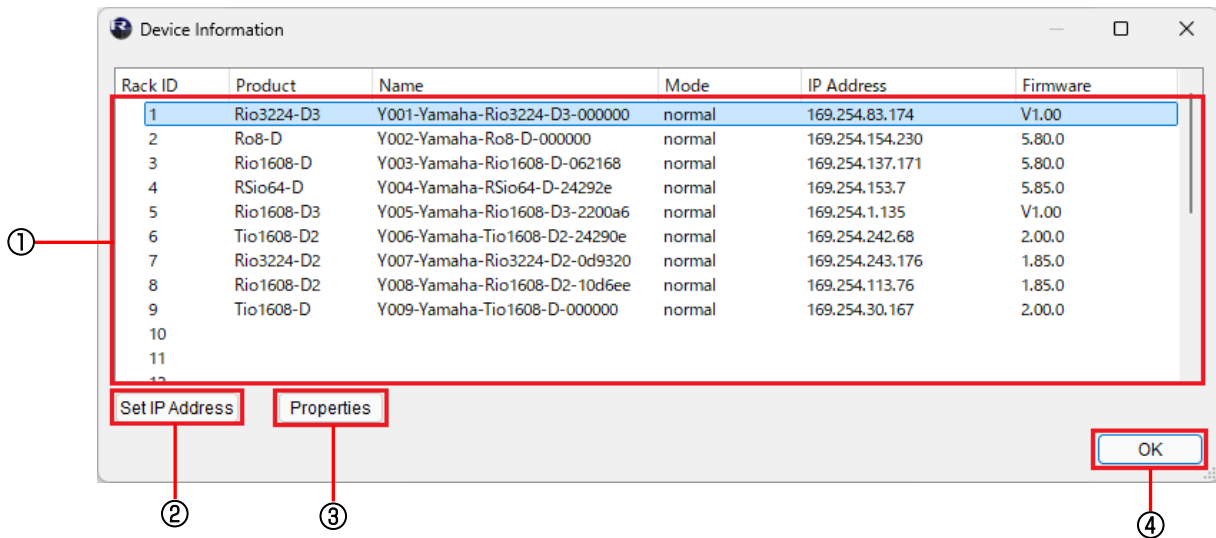
設定を更新し、ダイアログを閉じます。

③ [Cancel]ボタン

設定を更新せずに、ダイアログを閉じます。

「Device Information」ダイアログ

[File]メニュー→[Device Information]を選択すると表示されます。
接続されているデバイスの情報の一覧を表示します。



① 機器リスト

Rack ID などの項目名の部分を右クリックすると、表示する項目を選択できます。

Rack ID

Rack ID が表示されます。

Product

デバイスのモデル名が表示されます。

Name

デバイスの機器名が表示されます。この名前は Dante Controller で変更できます。

Mode

デバイスの Run Mode が表示されます。

IP Address

デバイスに設定されている IP アドレスが表示されます。

Port No.

デバイスの通信用ポート番号が表示されます。

Firmware

機器本体ファームウェアのバージョンが表示されます。

② [Set IP Address] ボタン

クリックすると、選択している機器の [「IP Address」ダイアログ](#) が表示されます。

③ [Properties] ボタン

クリックすると、選択している機器の [「Properties」ダイアログ](#) が表示されます。

④ [OK] ボタン

ダイアログを閉じます。

「IP Address」 ダイアログ

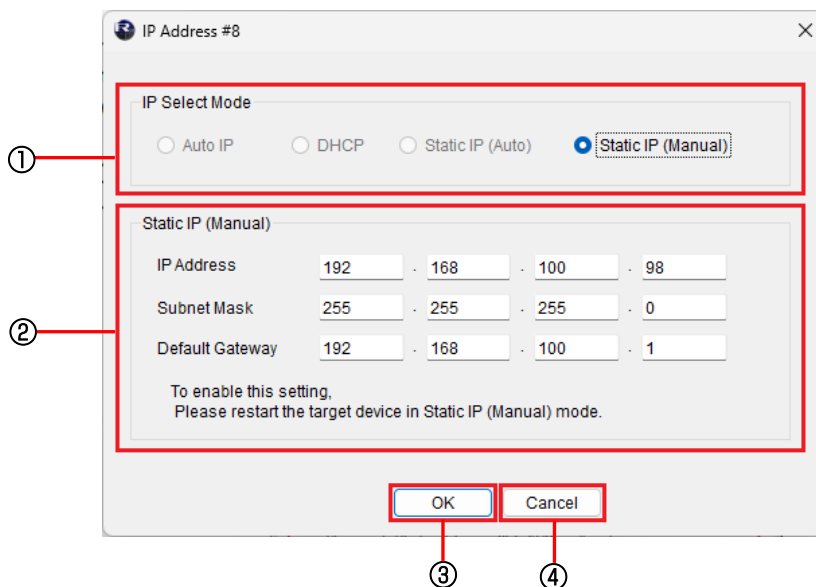
「Device Information」ダイアログで[Set IP Address]ボタンをクリックすると表示されます。
機器の IP Select Mode の状態確認や、Static IP (Manual)の機器の IP アドレスなどの設定をします。

NOTE

RMio64-D は、ディップスイッチの代わりにこのダイアログで IP Select Mode を設定します。
この設定はファームウェア V4.10 以降で有効です。

RMio64-D 以外のデバイスを Static IP(Manual)で使用する場合は、以下の手順で設定をしてください。

1. デバイスを Static IP (Manual)以外のモードで起動する。
2. R Remote を起動する。
3. 「Device Information」ダイアログで、Static IP (Manual)にしたい機器を選択する。
4. 「IP Address」ダイアログで Static IP (Manual)に必要な情報を入力する。
5. [OK]ボタンをクリックする。
6. デバイスを Static IP (Manual)モードの設定にして、再起動する。



① IP Select Mode

機器の IP SELECT MODE が表示されます。

② Static IP (Manual)

機器の IP SELECT MODE が Static IP (Manual)で起動されたときに使用する IP アドレスなどを設定します。

③ [OK]ボタン

設定を保存し、ダイアログを閉じます。

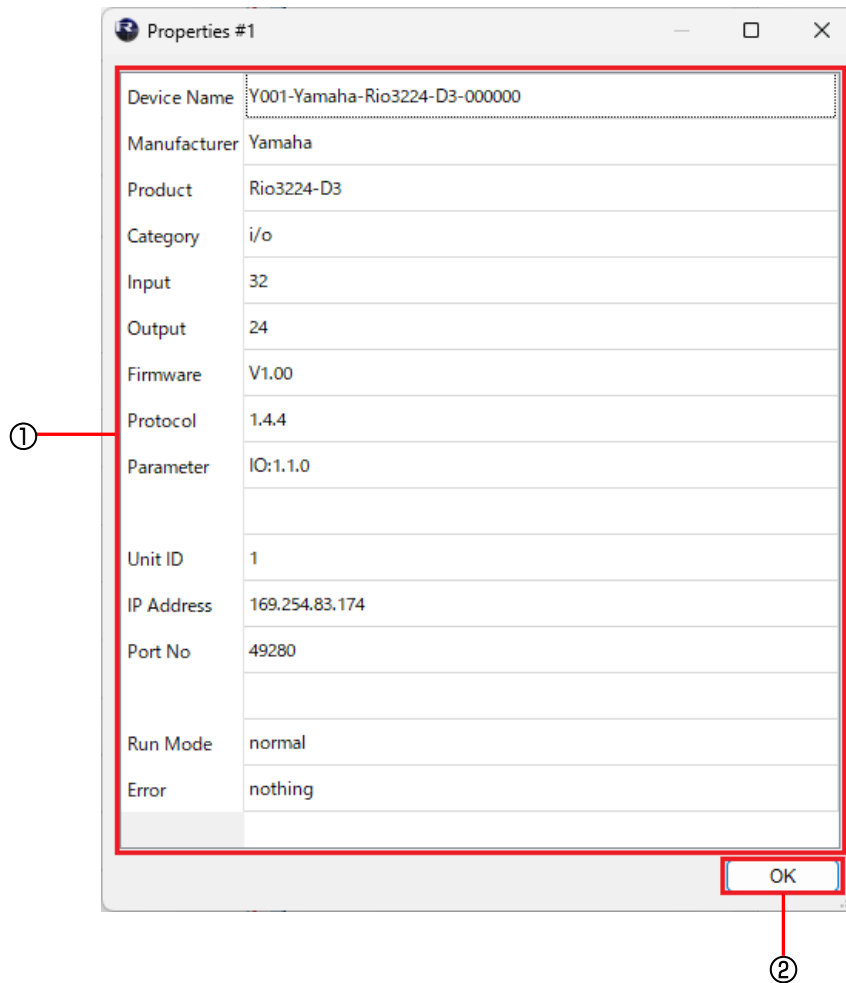
ここで設定した IP アドレスに変更する場合は、機器のディップスイッチを Static IP (Manual)の設定にしたあと、機器を再起動してください。

④ [Cancel]ボタン

設定内容を無効にし、ダイアログを閉じます。

「Properties」ダイアログ

「Device Information」ダイアログで[Properties]ボタンをクリックすると表示されます。
接続されている機器の情報を表示します。



① [Information]表示部

機器の情報を表示します。機器が繋がっていない場合は、情報が表示されません。

② [OK]ボタン

ダイアログを閉じます。

◆アウトプット画面

Rio3224-D3 / Rio1608-D3 の場合



① アウトプット表示部

Rio3224-D3 / Rio1608-D3 のアウトプットの設定を表示/設定します。



① [DELAY]ボタン

ディレイのオン/オフを切り替えます。

② デイレイ設定ノブ

ディレイ値を設定します。現在の設定値はノブの下にある数値ボックスで確認できます。選択しているディレイ設定ノブや数値ボックスはピンクの枠で囲まれ、コンピューターの [tab] ボタンで次のチャンネルに移動できます。

また、数値ボックスをダブルクリックすると、キーボードで直接入力できます。単位は DELAY SCALE で設定した単位が表示されます。

ノブのすぐ右側にあるレベルメーターで、対応するポートの出力レベルを確認できます。



② DELAY SCALE

ディレイタイムの単位を設定します。meter、feet、sample、ms から選択します。また、frame が設定できます。



③ PHONES

PHONES OUT ポートに割り当てたチャンネルとレベルメーターが表示されます。また、割り当てたチャンネルを変更できます。

④ [+48V ACTIVE]インジケータ

機器のファンタム電源のオン/オフ状態が表示されます (オン/オフの切り替えは、機器本体で行います。)

⑤ [SYSTEM]インジケータ/[SYNC]インジケータ

機器の状態や Dante の状態を表示します。マウスカーソルをこの部分に持ってくると、表示の内容をポップアップします。また、デバイスの状態に応じてインフォ  やアラート  を表示します。

⑥ [PEAK HOLD]ボタン

このボタンをオンにすると、各レベルメーターのピークが保持されます。オフにすると、保持されていたピークが解除されます。

⑦ [INPUT]ボタン/[OUTPUT]ボタン

[INPUT]ボタンを押してインプット画面を表示し、[OUTPUT]画面を押してアウトプット画面を表示します。

⑧ インピーダンスボタン

出力インピーダンスを設定します。10K か 600 で切り替えます。(単位：Ω)

Edit ウィンドウ (アウトプット)

アウトプット画面の操作子以外のところをダブルクリック、または右クリックで[Open Edit Window]を選択すると表示されます。

機器のアウトプットの詳細設定を表示/設定をします。ウィンドウを閉じるときは、Windows は右上の[×]ボタンをクリック、Mac は左上の[×]ボタンをクリックします。

画面は Rio3224-D3 の場合で説明しています。モデルによって表示ポート切り替えタブの数が変わります。



① デバイス名

機器の UNIT ID とデバイス名を表示します。

② [PEAK HOLD]ボタン

このボタンをオンにすると、各レベルメーターのピークが保持されます。オフにすると、保持されていたピークが解除されます。

③ 表示ポート切り替えタブ

表示するポートを切り替えます。

④ ポートインデックス

機器のポート番号が表示されます。マウスの左ボタンを押すと、機器本体の該当ポートのインジケーターが点灯します。

⑤ [φ]ボタン(Polarity ボタン)

出力する信号の位相を切り替えます。

⑥ [GAIN]ノブ

機器のアウトプットゲイン量を設定します。現在の設定値はノブの下にある数値ボックスで確認できます。数値ボックスをダブルクリックすると、キーボードで直接入力できます。また、ノブのすぐ右側にあるレベルメーターで、対応するポートの出力レベルを確認できます。ノブ部分でのショートカットには以下のものがあります。

操作	動作
<Ctrl> (<command>) + クリック	アウトプットゲイン量を初期値(0dB)にします。
<Ctrl> (<command>) + <Shift> + クリック	アウトプットゲイン量を 0dB にします。

[GAIN]ノブと数値ボックスの選択(ピンクの枠)は、コンピューターの[tab]ボタンで次のチャンネルに移動できます。

⑦ [DELAY]ボタン

ディレイのオン/オフを切り替えます。

⑧ ディレイ設定ノブ

ディレイ値を設定します。現在の設定値はノブの上下にある数値ボックスで確認できます。数値ボックスをダブルクリックすると、キーボードで直接入力できます。

DELAY SCALE が ms 以外のときに、ノブ上の数値ボックスに ms 単位を常に表示します(DELAY SCALE が ms のときは非表示)。

ノブ下の数値ボックスには DELAY SCALE の単位が表示されます。

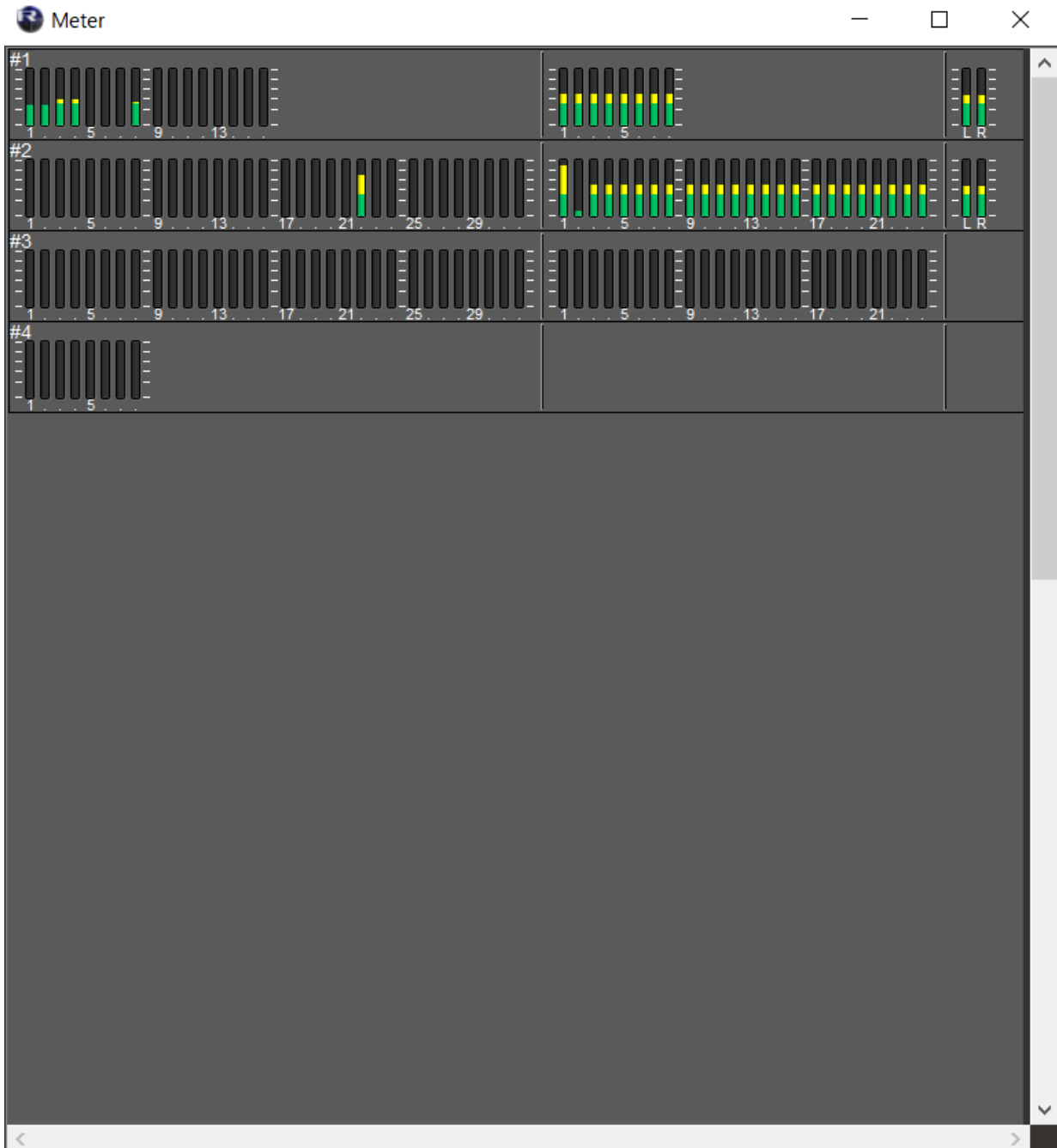
ディレイ設定ノブと数値ボックスの選択(ピンクの枠)は、コンピューターの[tab]ボタンで次のチャンネルに移動できます。

「Meter」画面

[File]メニュー→[Meter (1Line)]または[Meter (2Line)]を選択すると表示されます。
アサインされていないデバイスのメーターや、対象外のデバイスのメーターは表示されません。

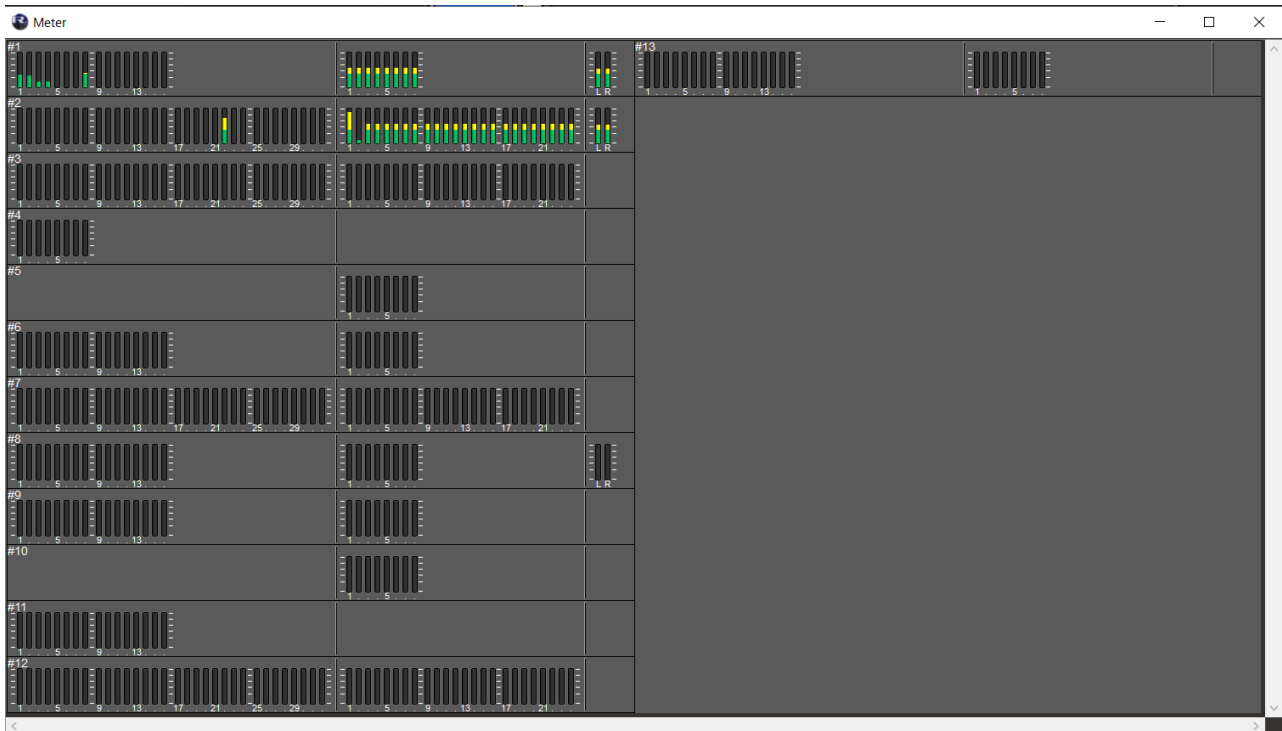
1 列表示モード

[Meter (1Line)]を選択すると、アサインされている各デバイスのメーターを1列で縦に並べて表示します。
縦にスクロールし、アサインされている全デバイス 24 までを表示できます。



2列表示モード

[Meter (2Line)]を選択すると、アサインされている各デバイスのメーターを2列で縦に並べて表示します。スクロールしないですべてのデバイスを一覧できます。



ファームウェアをアップデートする

R Remote (V6.0以降)から R Series (Rio3224-D、Rio1608-D、Ri8-D、Ro8-D、RSio64-D、RMio64-D、Rio3224-D2、Rio1608-D2、Rio3224-D3、Rio1608-D3)や Tio1608-D、Tio1608-D2 のファームウェアをアップデートする手順を説明します。

ご注意(必ずお読みください)

- ・ アップデート作業中(データのロード中)に機器の電源を切ったり、ケーブルを抜いたり、このユーザーガイドに記載された手順と異なった操作をされますと、機器が故障する場合がありますのでご注意ください。

アップデートの流れ

- 1 [ファームウェアをアップデートする動作環境を確認する \(P.4\)](#)



- 2 [デバイスとコンピューターの接続 \(P.41\)](#)



- 3 [コンピューターのネットワーク設定を行う \(P.11\)](#)

NOTE

RMio64-D のファームウェアをアップデートするには、IPv6 が有効になっている必要があります。



- 4 [アップデートを行う \(P.45\)](#)

デバイスとコンピューターの接続

アップデートを行う対応デバイスの Dante [PRIMARY]端子にコンピューターを直接接続してください。Rio3224-D3、Rio1608-D3 の場合で、コントロールでネットワーク端子を使用している場合は、ネットワーク端子でも接続可能です。

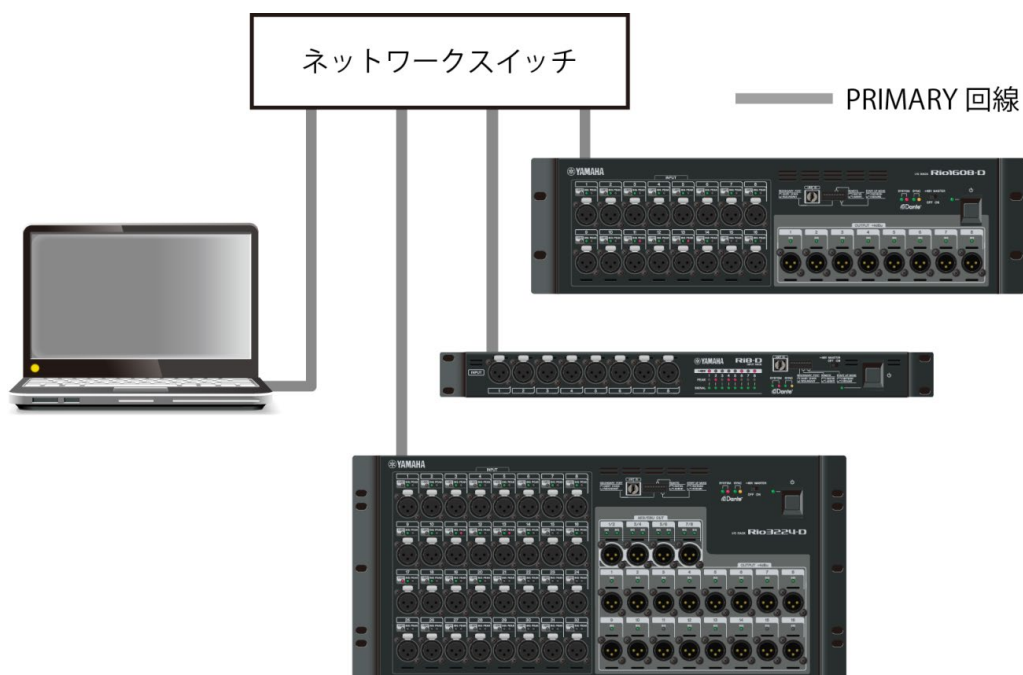
NOTE

- ・アップデートするデバイスに Dante Device Lock が掛かっている場合、Dante ファームウェアを更新できません。デバイス本体のファームウェアは、Dante Device Lock が掛かっている場合でも更新できますが、Dante Device Lock を解除するまで Dante Controller や CL/QL/RIVAGE PM/DM7/DM3 の I/O DEVICE 画面にはアップデート前のバージョンが表示されます。Dante Controller で Dante Device Lock を解除してください。
- ・アップデートするデバイスが DANTE DOMAIN MANAGER の DOMAIN に参加している場合は、DOMAIN から外し、デバイスとコンピューターを同じサブネットに接続してください。



※Rio3224-D の接続例です。

DANTE ネットワーク上に複数の対応デバイスが存在する場合でも、そのネットワークの DAISY CHAIN 回線のどこか、もしくは REDUNDANT の PRIMARY 回線のどこかにコンピューターを接続してアップデートできます。



ネットワーク設定

接続するコンピューターのネットワークを「[コンピューターの IP アドレスを設定する](#)」に従って設定してください。

R Remote からコントロール可能な状態のときにアップデートできます。

ネットワーク接続の詳細と注意事項については下記 URL をご参照ください。

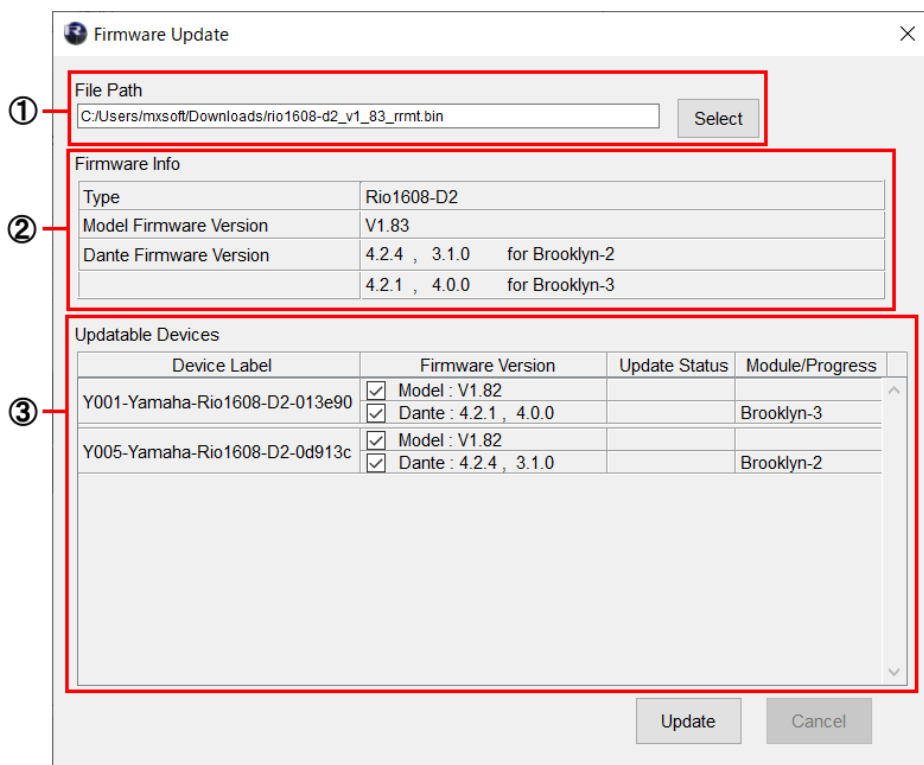
<http://www.yamahaproaudio.com/>

R Remote Firmware Updater

各デバイスには、本体用と Dante 用(Rio3224-D3、Rio1608-D3 は本体用と Dante 用で一体)のファームウェアがあり、その両方を R Remote を使ってアップデートできます。ファームウェアのアップデートを行う R Remote Firmware Updater の画面は下記です。

NOTE

アップデートするデバイスが DANTE DOMAIN MANAGER の DOMAIN に参加している場合、Dante ファームウェアはアップデートできません。



Brooklyn2/Brooklyn3 を含むファームウェア読み込み時

① File Path(ファイル選択エリア)

アップデートするファームウェアを選択、表示するエリアです。(Tio1608-D2 は Tio1608-D とファイルが共通になります。V2 以前のファームウェアは書き込めません。) また、Tio1608-D2 をアップデートする場合は、Tio1608-D Compatibility Mode を解除した状態で実行してください。

② Firmware Info(ファイル情報エリア)

選択したファームウェアの情報を表示するエリアです。

NOTE Rio3224-D3、Rio1608-D3 には Dante Firmware Version は表示されません。

③ Updatable Devices(デバイス情報エリア)

アップデートするデバイスの情報を表示するエリアです。

デバイス名、ファームウェアのバージョン、ステータスが表示されます。デバイスが DANTE DOMAIN MANAGER の DOMAIN に参加している場合、情報が取得できないため Dante ファームウェアのバージョンは表示されません。

デバイス本体ファームウェア(Model)、Dante ファームウェアのそれぞれの情報が表示されます。

NOTE Rio3224-D3、Rio1608-D3 では、Firmware Version 欄の Dante ファームウェアのバージョンと Module/Progress の Dante 情報は表示されません。

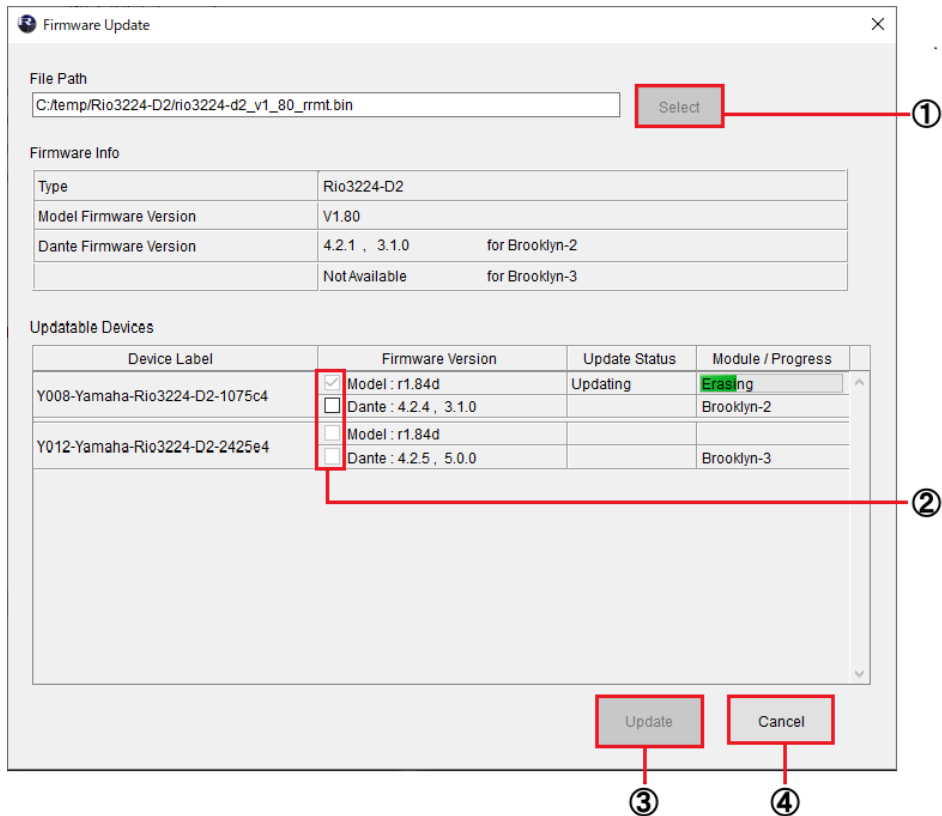
Update Status 欄には下記の情報が表示されます。

メッセージ	内容
Waiting	アップデート開始待ちです。
Updating	アップデート中です。
Cancelled	アップデートがキャンセルされました。
Finished	アップデートが完了しました。(デバイスを再起動する必要があります)
Completed	アップデートが完了し、デバイスのバージョンが更新されました。
Failed	アップデートに失敗しました。

Module / Progress 欄には以下の情報が表示されます。

Model:	RMio64-D、Rio3224-D3、Rio1608-D3 以外: Erasing(データ消去中) → Transferring(データ転送、書き込み中) RMio64-D: Writing(データ書き込み中) Rio3224-D3、Rio1608-D3: Transferring(データ転送) → Writing(データ書き込み中)
Dante: (Rio3224-D3、Rio1608-D3 には表示されません。)	デバイス読み込み時: Brooklyn2/Brooklyn3(モジュール種別を表示) アップデート中: Transferring(データ転送中) → Writing(データ書き込み中)

注記 データ書き込み中には、絶対にデバイスの電源を切ったり、ネットワークケーブルを抜いたりしないでください。アップデート中のファームウェアが破損し、デバイスを正常に起動できなくなります。



Brooklyn2 のみを含むファームウェア読み込み時

① [Select] ボタン

アップデートするファームウェアが含まれるファイルを選択します。ファイル「xxxx_v*_**_rrmt.bin」(Rio3224-D3、Rio1608-D3 の場合は「Rio-D3_firmware_v*_**.bin」)には本体用と Dante 用のファームウェアが含まれています。

NOTE | xxxx はデバイス名を表します。*_** (または*.***) はファームウェアバージョンを表します。

(例: rio3224-d_v4_10_rrmt.bin)

NOTE | [Select] ボタンがグレーアウトされて選択できない場合は、Dante に使用するネットワークインターフェースが正しく設定がされていない可能性があります。Dante Controller の Configuration of Dante Interface で適切なネットワークインターフェースを選択し Dante Controller からアップデートするデバイスが確認できるようにして下さい。

② チェックボックス

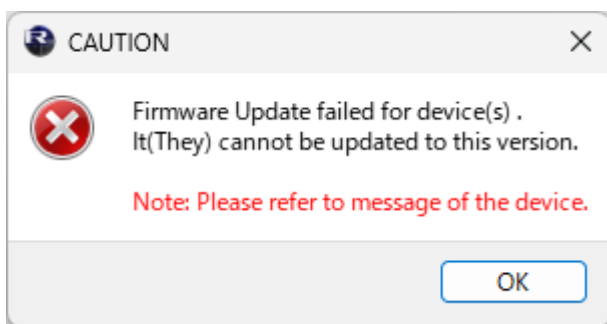
デバイスごとに、本体ファームウェア(Model)/Dante ファームウェアをアップデートするかどうかを選択します。

Firmware Info(ファイル情報エリア)の Dante ファームウェアで Not Available と表示している Dante モジュール搭載デバイスは、モデルのファームウェアもアップデートできないためチェックボックスがグレーアウトします。

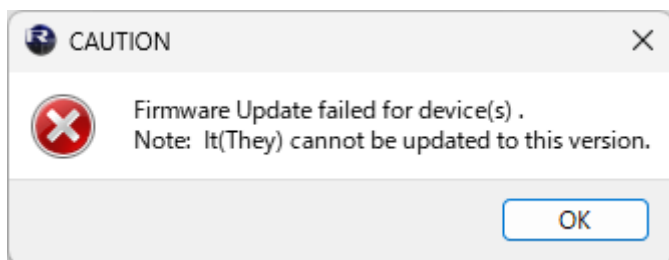
③ [Update] ボタン

アップデートを開始します。

NOTE | Rio3224-D2 / Rio1608-D2 では、基板の変更対応を本体ファームウェア(Model)の V1.80 以降で実装しています。そのため、バージョンが V1.80 以降でそのバージョン未満にはダウングレードできない場合があります。その場合は、[Update] ボタンを押した後にダウングレードができないとメッセージが表示されます。



NOTE Tio1608-D2 は V2.0 未満にはダウングレードできません。[Update]ボタンを押した後にダウングレードできないメッセージが表示されます。



④ [Cancel]ボタン

アップデートが開始されていないデバイスのアップデート作業を中止します。

アップデート手順

ファームウェアをアップデートする手順を説明します。

1. R Remote のメニューから Tool→Firmware Update を選択します。
Firmware Updater が起動します。
2. (RMio64-D の場合) NUAGE Workgroup Manager が起動しているときは終了します。
3. [Select]ボタンを押して、アップデートするファームウェア「xxxx_v*_**_rrmt.bin」を選択します。
デバイス情報エリアにアップデート可能なデバイスが表示されます。

NOTE ファームウェアは下記ウェブサイトからダウンロードできます。

<http://www.yamahaproaudio.com/>

NOTE xxxx はデバイス名を表します。*_**はファームウェアバージョンを表します。(例：rio3224-d_v4_10_rrmt.bin)

NOTE R Remote 非対応の古いファームウェアを選択した場合「Invalid file.」と表示され、アップデートできません。

NOTE 選択したファイルに含まれるファームウェアが、デバイスのファームウェアよりも新しい場合、そのファームウェアのチェックボックスは自動的にチェックされます。

選択したファイルに含まれるファームウェアが、デバイスのファームウェアよりも古い場合、そのファームウェアのチェックボックスを手動でチェックする必要があります。

NOTE アップデートするファームウェアが選択されると、ユーザーフォルダー内に一時的に「RRMT_****」というフォルダーが生成されます。このフォルダー内のフォルダーやファイルはアップデートに使用されますので移動や削除をしないでください。これらのフォルダーやファイルは「R Remote Firmware Updater」を閉じると自動的に削除されます。

4. [Update]ボタンを押して、アップデートを開始します。
5. アップデートが完了したら、ポップアップ画面が表示されますので、[OK]ボタンを押します。
6. 新しいファームウェアを有効にするため、アップデートが完了したデバイスの電源を入れなおします。
正しくアップデートされると、R Remote Firmware Updater の「Update Status」が「Finished」から「Completed」に変わります。

デバイスの発見と喪失について

ファイルを選択すると、ネットワーク上に発見されたすべてのデバイスの中から、ファイルが対応するデバイスがリストアップされてデバイス情報エリアに表示されます。

また、その後アップデートを開始する前までは、新たに発見された対応デバイスも随時リストに追加されます。

逆に、ネットワークケーブルが抜けるなどして R Remote がデバイスを喪失した場合、そのデバイスのバージョン表示部分(Firmware Version)には Disconnected と表示されます。

ファームウェアのアップデートに失敗した場合

ファームウェアのアップデートに失敗しても、R Remote がデバイスを認識していれば、何度でもやり直せます。ただしアップデート中にデバイスの電源が切れてしまった場合、デバイスが正常に起動できなくなります。その場合は、R Remote のデバイス情報エリアにデバイスが表示されなくなり、症状に従って下記の対処が必要になります。

Dante Controller のネットワークグリッドビューでデバイス名が赤色で表示される場合

→ Dante のファームウェアがフェイルセーフモードに入っています。Dante Controller に付属する Dante Updater を使って、Dante ファームウェアの復旧と最新 Dante ファームウェアのインポート及びアップデートを実施してください。

R シリーズ/Tio1608-D/Tio1608-D2 のファームウェアから Dante ファームウェアを取得できます。

R Remote を起動し、「[アップデート手順](#)」の手順 1 から 3 を実行します。(初回のみ)

ユーザーフォルダー内に一時的に「RRMT_****」というフォルダーが生成されます。

NOTE Dante Updater での Dante ファームウェアインポートが完了するまで R Remote Firmware Update のウィンドウを閉じないでください。

詳細手順は [Dante ファームウェアアップデートガイド](#) の「フェイルセーフモードについて」及び「ファームウェアを更新する」をご覧ください。

デバイスのインジケーター(赤)が点灯または点滅している場合

→ 本体のファームウェアが破損しています。R Remote のインストーラーでインストールできる R Remote Recovery Updater を使って、本体のファームウェアをアップデートしてください。アップデート方法は、以下の通りです。

NOTE RMio64-D、Rio3224-D3、Rio1608-D3 は、R Remote Recovery Updater に対応していません。ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

1. デバイスの電源を切ります。
2. (Rio3224-D2、Rio1608-D2 以外は、)デバイスのディップスイッチの設定をメモします。
手順 5 でディップスイッチの設定を変更します。アップデート完了後に元に戻しますので、変更前のディップスイッチの設定をメモしておいてください。
3. デバイスの Dante [PRIMARY]端子と[SECONDARY]端子から Ethernet ケーブルを外します。
4. デバイスの Dante [PRIMARY]端子とコンピューターの Ethernet 端子を Ethernet ケーブルで直接接続します。
5. Rio3224-D2、Rio1608-D2 は、▶ (INC) ボタンとスイッチ付きエンコーダーを押したまま電源を

入れます。

Rio3224-D2、Rio1608-D2 以外は、ディップスイッチの 8 を下側(ON)に設定し、それ以外は上側(OFF)に設定して、電源を入れます。

デバイスがアップデートモードで起動します。アップデートモードで起動すると

Rio3224-D、Rio1608-D、 Ri8-D、Rio3224-D2、 Rio1608-D2	すべての+48V インジケーターが点滅します。
Ro8-D	[SYSTEM]インジケーターの右側(赤)と[SYNC]インジケーターの右側(橙)が点滅します。
RSio64-D	SLOT、WORD CLOCK のすべての赤インジケーター、SYSTEM 右側の赤インジケーターと SYNC 右側の橙インジケーターが点灯します。
Tio1608-D、Tio1608-D2	STATUS INPUT / OUTPUT インジケーターが点滅します。

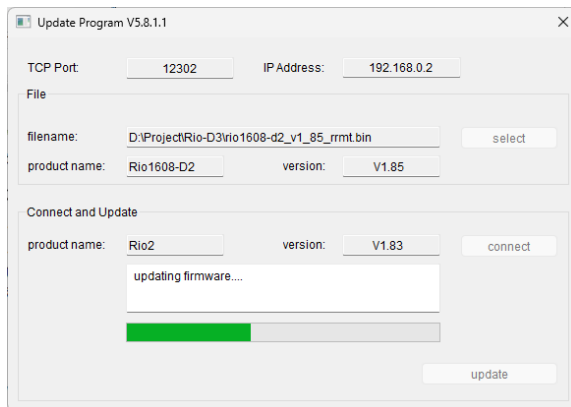
6. コンピューター本体の IP アドレスとサブネットマスクを以下のように設定します。

設定方法についての詳細は「[コンピューターの IP アドレスを設定する](#)」をご参照ください。

IP アドレス: 192.168.0.101

サブネットマスク: 255.255.255.0

7. R Remote Recovery Updater を起動します。



NOTE Windows で「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[続行]または[はい]をクリックします。

8. [select]ボタンを押して、アップデートするファームウェア「xxxx_v*_**_rrmt.bin」を選択します。

NOTE xxxx はデバイス名を表します。*_**はファームウェアバージョンを表します。(例 : rio3224-d_v4_10_rrmt.bin)

NOTE R Remote 非対応の古いファームウェアを選択した場合「Invalid file.」と表示され、アップデートできません。この場合は、古いファームウェアと同じ圧縮ファイルに含まれている専用のアップデーターを使って本体ファームウェアをアップデートしてください。アップデート方法の詳細は、各デバイス専用アップデーターのアップデートガイドをご参照ください。

9. [connect]ボタンを押します。

「Connect and Update」欄にデバイス名とファームウェアバージョンが表示されます。

10. [update]ボタンを押して、アップデートを開始します。

NOTE アップデート中は、「Updating firmware....」と表示されます。

11. アップデートが完了したら、R Remote Recovery Updater を閉じます。

NOTE アップデートが完了すると、「Connect and Update」欄に「Update was completed. Close this Update Program.」と表示されます。

12. デバイスの電源を切ります。

13. (Rio3224-D2、Rio1608-D2 以外は、) デバイスのディップスイッチの設定を戻します。

メッセージ一覧

アップデート中にポップアップ画面で表示されるエラー/警告/確認のメッセージは下記です。

■エラーメッセージ

メッセージ	内容	対応方法
Cannot unpack the file. File path may be too long. Make sure that the file path is less than 260 characters.	ファイルの一時展開に失敗しました。 ファイルの置き場所（パス）の文字数が多すぎます。	ファイルを C:\temp などの階層の浅い場所に移動してください。
Cannot unpack the file. User directory cannot be edited. Make sure that edits to this directory are permitted.	ファイルの一時展開に失敗しました。 ユーザーディレクトリ等の書き込みが不可になっています。	ユーザーディレクトリのアクセス権を書き込み可能な設定に変更してください。
Invalid file. Select a valid file.	不正なファイル、あるいは非対応のファイルが選択されました。 以前のファームウェアファイルと異なり、R Remote 対応のファームウェアファイルには、デバイス本体と Dante の両方のファームウェアがひとつのファイルに含まれています。	正しいファイルを再選択してください。 R Remote 対応のファイル名には「rrmt」の文字が含まれています。
Unexpected error occurred. Please restart the R Remote software and try again.	予期しないエラーが発生しました。	R Remote を起動し直して、再度アップデートを試みてください。
Dante Control and Monitoring service not found. Make sure that the Dante Controller is installed and the service is running. Then restart R Remote software.	Dante Control and Monitoring サービスが起動していません。	Dante Controller がインストールされていることを確認してください。
Firmware update failed for device(s). Check network connection and try again.	ひとつ以上のデバイスのアップデートが失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピューターのネットワーク設定 (11 ページ)、およびネットワーク接続を確認して、再度アップデートを試みてください。 ・ アップデートするデバイスに Dante Device Lock が掛かっている場合、Dante ファームウェアを更新できません。この場合は、Dante Controller で Dante Device Lock を解除してから再度アップデートを試みてください。 ・ アップデートするデバイスとコンピューターをネットワーク経由で接続している場合、デバイスの Dante [PRIMARY]端子とコンピューターを直接接続してから再度アップデートを試みてください。
Dante Network Setting Failed. Check Dante Interfaces and try again.	Dante Firmware Update のためのネットワーク設定に失敗しました。	Dante Controller で Dante Interface 設定を行ってください。設定方法は、Dante Controller に付属のマニュアルを確認してください。

■警告メッセージ

メッセージ	内容
Update in progress. Wait until update is completed.	アップデート中に[X]ボタンが押されました。 アップデート完了までお待ちください。

■確認メッセージ

メッセージ	内容
Cancel update? This will cancel the update of all waiting devices.	アップデート中に[Cancel]ボタンが押されました。 アップデートを終了する場合は[はい(Y)]ボタンを、アップデートを継続する場合は[いいえ(N)]ボタンを押してください。
Close? One or more devices have not been updated yet.	アップデート失敗しているデバイスがある状態で [X]ボタンが押されました。 ウィンドウを閉じる場合は[はい(Y)]ボタンを、継続する場合は[いいえ(N)]ボタンを押してください。
Select file? One or more devices have not been updated yet.	アップデート失敗しているデバイスがある状態でファイル選択ボタンが押されました。 ファイル選択を行う場合は[はい(Y)]ボタンを、行わない場合は[いいえ(N)]ボタンを押してください。

■その他のメッセージ

メッセージ	内容
New updatable device found.	アップデート可能なデバイスが発見されました。
Firmware update successfully completed.	すべてのアップデートが成功しました。

困ったときは

症状	原因	対策方法
デバイスが接続されない。	デバイスの電源スイッチがオンになっていない。	電源スイッチをオンにしてください。
	デバイスのディップスイッチの設定が正しくない。	「デバイスの設定をする」 を見て、適切な設定にしてください。
	ケーブルが正しく接続されていない。	橙色の[SYNC]インジケータが点滅している場合、ケーブルが断線しているか、正しく接続されていないことをあらしめます。ケーブルを正しく接続してください。
		REDUNDANT モードの場合、[PRIMARY]端子に接続されているネットワークスイッチに接続してください。
	コンピューターの IP アドレス設定が正しくない。	コンピューターの IP アドレスをデバイスのディップスイッチ設定に合わせて設定してください。
	ネットワークカードの選択が間違っている。	「Network Setup」ダイアログ で、デバイスと通信するネットワークカードを選択してください。
	ファームウェアが古い。	各デバイス専用のアップデータを使って、R Remote に対応したファームウェアにアップデートしてください。R Remote 対応ファームウェアのバージョンは「 ■ 動作環境 」を参照してください。
	R シリーズが AD8HR モードになっている。	ディップスイッチ 5 と 6 は上にして、NATIVE モードにしてください。
DANTE DOMAIN MANAGER などによって、デバイスがコンピューターとは別のサブネットに接続されている。	デバイスとコンピューターを同じサブネットに接続してください。	
音が入力されない/入力レベルが小さい。	HA のゲインが適切なレベルでない。	HA のゲインを適切なレベルに設定してください。
	外部機器から信号が出力されていない。	外部機器から信号を出力して、該当チャンネルの SIG インジケータを点灯させてください。
	コンデンサマイクが接続されているのに、ファンタム電源が供給されていない。	[+48V ACTIVE]スイッチ*をオンにしてください。(*Tio1608-D2、Rio3224-D3、Rio1608-D3 以外、または Tio1608-D2 を Tio1608-D Compatibility Mode で使用している場合は、[+48V MASTER]と表示されます。)
		該当チャンネルのファンタム電源をオンにしてください。
CL/QL/RIVAGE PM/DM7/DM3 シリーズが接続されていない状態で REFRESH モードになっている。	RESUME モードにしてください。	
HA のゲインを調整しても音声レベルが変化しない。	ゲインコンペーンションがオンになっている。	ゲインコンペーンションが不要な場合は、ゲインコンペーンションをオフにしてください。

症状	原因	対策方法
[UNIT ID]ロータリースイッチやディップスイッチの設定が反映されない。	電源がオンの状態で設定を変更した。	デバイスの電源を入れ直してください。
デバイスを認識しない。	Windows ファイアウォールで通信をブロックされている。	以下の手順で R Remote が Windows ファイアウォールでブロックされないようにしてください。 <ol style="list-style-type: none"> 1. コントロールパネルを開く。 2. 右上の「表示方法」で[カテゴリ]を選択する。 3. [システムとセキュリティ]をクリックする。 4. [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可]をクリックする。 5. 「許可されたプログラムおよび機能」で「Yamaha R Remote」にチェックを入れ、右のチェックボックスにもチェックを入れる。 6. [OK]ボタンをクリックして、コントロールパネルを終了する。
デバイスと接続が切れる。	(Mac)App Nap を切っていない。	[App Nap を切にする]にチェックを入れてください。
	コンピューターがスリープ状態になった。	コンピューターがスリープ状態にならないように設定してください。
アップデートするデバイスが表示されない。	Ethernet ケーブルが正しく接続されていない。	コンピューターとデバイスの Dante [PRIMARY]端子を Ethernet ケーブルで直接接続してください。ネットワーク経由でアップデートする場合は、R Remote がインストールされているコンピューターとアップデート対象のデバイスがネットワーク経由で正しく接続されているかも確認してください。(41 ページ)
	ネットワークが正しく設定されていない。	コンピューターのネットワーク設定を「 コンピューターの IP アドレスを設定する 」に従って設定してください。 RMio64-D のアップデートをする場合は、R Remote を使用するコンピューターで IPv6 が有効になっている必要があります。
	アップデートするファームウェアが選択されていない。	アップデートするファームウェアを選択してください。(42 ページ)
	デバイスのディップスイッチの設定が正しくない。	「 デバイスの設定をする 」を見て、適切な設定にしてください。 アップデートするデバイスが RMio64-D 以外の場合は、アップデート前にディップスイッチ 7,8 を上にした状態でデバイスを再起動してください。ディップスイッチの変更はデバイスをオフにした状態で行ってください。
	R Remote がインストールされているコンピューターで、デバイスと接続しているネットワークカードが選択されていない。	「 Network Setup 」ダイアログで、デバイスと通信するネットワークカードを選択してください。

症状	原因	対策方法
	Windows ファイアウォールで通信をブロックされている。	<p>以下の手順で R Remote が Windows ファイアウォールでブロックされないようにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コントロールパネルを開く。 2. 右上の「表示方法」で[カテゴリ]を選択する。 3. [システムとセキュリティ]をクリックする。 4. [Windows ファイアウォールによるプログラムの許可]をクリックする。 5. 「許可されたプログラムおよび機能」で「Yamaha R Remote」にチェックを入れ、右のチェックボックスにもチェックを入れる。 6. [OK]ボタンをクリックして、コントロールパネルを終了する。
	DANTE DOMAIN MANAGER などによって、デバイスがコンピューターとは別のサブネットに接続されている。	デバイスとコンピューターを同じサブネットに接続してください。
アップデートに失敗する。	アップデート対象デバイスに Dante Device Lock が掛かっている。	アップデート対象デバイスの Dante Device Lock を解除してください。
		メッセージ一覧 の内容に従って、対応してください。
[Select] ボタンがグレーアウトされて選択できない。	Dante に使用するネットワークインターフェースが正しく設定がされていない可能性があります。	Dante Controller の Configuration of Dante Interface で適切なネットワークインターフェースを選択し Dante Controller からアップデートするデバイスが確認できるようにしてください。